

明治四十二年

(一月)

一月一日 辛酉 金曜 四方拝。晴。

朝四時起。天神地神を拝し、祖先代々を拝して、七時食堂にて、家内一同、生徒一同の礼拝を済して、椒酒、雑煮を祝ふ。家内、生徒一同と共に、氷川神社に参詣して帰る。此時、写真師中黒来りて、一同撮影す。始めてあられさつとふる。已而止。賀客、岡崎子、橋本宗二郎。

*あられ(霰)

一月二日 壬戌 土曜 晴。三九(度)。

朝起。七時半、一同食堂にて雑煮如昨。午前九時より年礼に廻る。今津、田村、戸田、加茂氏、中村、高橋、島田氏、閑院宮に詣し、両殿下及若宮、姫宮殿下拝謁して、御祝酒、御昼飯を戴き、一条公、九条公にて、御夫婦、御子様かた御一同に拝して、三井男、三条公に御一同に。此時、閑院宮殿下成らせられ、御側に侍して還行迄。志賀、東郷伯、寺内大臣、石山子。夜に入て帰。此日、石山氏、沖津え旅行。

*沖津(興津)

一月三日 癸亥 日曜 晴。

朝起。七時半、雑煮如昨。午前十時より出門、小松宮に詣し、御後室頼君様に謁して、種々御談話申上て、御祝酒、御午餐を戴て、一時退出。三条信受院様え参り、御淑酒、雑煮にてゆるく御咄し申上て帰る。王子洪沢氏え行。不在にて不逢。酒井伯を問ふ。三条公も御出にて、御同席。御淑酒を頂戴す。伯ハ昨夜より御不出来のよし。近藤家令に逢て帰。山片より使来り、今朝菊女死去のよし、驚入たり。

*御淑酒(御椒酒) *御淑酒(御椒酒)

一月四日 甲子 月曜 雨。

終日雨にて客もなし。山片菊え使出す。朝もはや葬送も出たる跡也と云。受信 神代え種々小包物。御寺御所えも。

*跡(後)

一月五日 乙丑 火曜 晴。

朝より松尾氏に行。臣善男と若夫婦、孫たちにも逢、種々昔咄しに時を移せり。夫より新橋十時三十分に乗して横浜二行。此時、李子と同道の筈、李子二汽車おくれて茂木氏に来

る。同氏にて昼飯呼れ、予ハ石井氏、来栖え行。李子に逢て、同しく三ノ谷原氏え行、一泊す。寒月亭にて。

一月六日 丙寅 水曜 晴。

朝もゆる／＼起て、朝飯後、主人其外一同と共に梅林中所々散歩して、山里ニて晚茶、イロリノほとりに寄り集ひて、美術之咄しに。昼に成りて又寒月にて午餐を呼れて、四時急行にて帰。石山基威氏も此時帰。

*イロリ(囲炉裏)

一月七日 丁卯 木曜 晴。

朝、七草の粥を祝ふ、例の如し。賀客十五人。実にいそかし。

受信 京都御寺御所より縁(豌)豆着。

*縁豆(豌豆)

一月八日 戊辰 金曜 晴。四十(度)。

始業式執行、午下一時より。習字教室に、校長、教員、生徒一同着席。始、君か代唱歌、次、校長春の始の詞朗読、一、二、三、四、五、生徒の唱歌、畢而、須川氏、鳥の理学講議、畢而式済。運動に三方幕張て真中に四角く青竹結ひて、其中に福引景物を飾りて、一より廿迄の机持たる人を手拭にてめんないさせて、ヲルガン二調にてはやしたて、止たる時景物を取る、宝さかしの趣工也。実に面白く、二百六十番迄也。次、台神楽をやる。五時全畢。

受信 関一郎氏よりするめ着。

*講議(講義) *机(札) *めんない(目無) *宝さかし(宝搜) *趣工(趣向) *

台神楽(太神楽)

一月九日 己巳 土曜 晴。四十(度)。

業はしめ執行す。午下早々、御所姉小路典侍様え参る。御年詞申上、種々御咄し等有て、御雑煮、御酒肴にて、其中今にも雪になりそうにて、四時御暇申て退る。良子様、此度皇后宮沼津御避寒に供奉仰付られる。此帰途、大炊氏、姉小路氏を訪ふて帰。夕かたより雪降り出したり。本日より電車指ヶ谷迄全通す。待兼たる電車時節到来、可喜。受信 米国津田よりみかん着。

一月十日 庚午 日曜 晴。

終日揮毫。朝、戸明て驚たり。雪積六七時。起るやいなや、其まゝスケツチ取出して、天よりあたへたるこの雪中松を写生して、続て奥の庭の松を写生す。其時出入の人々、松の雪を払て果然たり。此事を申し遅れたり。

*時(寸) *果然(杲然)

一月十一日 辛未 月曜 晴。四十(度)。

朝、課業例の如し。午下より麻布本村越英之助氏に行。素謡会にて、予、鉢木を謡ふ。三井得右衛門御夫婦、玉枝、岡崎忠子、石山すま子、板垣妻、さゝ木節衛、国茂妻、大井氏。高砂、田村、羽衣、船弁慶、東北、岩船、番外鉢木。夜九時帰宅。

*さゝ木(佐々木)

一月十二日 壬申 火曜 晴。三十五(度)。

課業例の如し。賀客、岩佐ちか子、橋本細君、前川初喜、河津とし子。正子、朝より年賀に廻る。夜八時過帰宅。

一月十三日 癸酉 水曜 雪。三十八(度)。

課業例の如し。硯の墨も氷り、寒気ハ最高し。午下、雪益々ふりつゝく。

受信 韓国俵松子より唐墨着。

発信 岡山津田氏え菓子小包にて出す。

摘要 愛国婦人会発会、欠席。

一月十四日 甲戌 木曜 晴。

課業例の如し。志賀君講話あり。正子、李子、福引の買物二行。来客、岡山津田弘視姉。

一月十五日 乙亥 金曜 晴。

課業例の如し。原春子、角田栄子来る。

一月十六日 丙子 土曜 晴朗。

泉会新年会執行。前日より準備ニいそかし。式場ハ裁縫場正面に大なる富士山を拵へ、絶頂を脊景とし、空中に天人の音楽飛行、四方皆大空となし、山麓に松を植る。絶頂に福引景品を飾付、富士山頂の宝さがしと云。辰巳之間に簪を設け、御神酒を一同に出し、午下一時半集会。会長一場之挨拶あり。次ニ小山とみ女の講談、次ニ桃川燕林落語三席。此時窟にてあま酒饗応あり。木花咲邪姫命の御使女童来降して、今日の面白き演舌アリ。一同笑談甚し。宝さがしハ大なる鈴の緒に一、二の札をつけ、それを引北口、南口より登りて福を得る。景品数百廿余也。点灯畢而御殿場食堂え集る。一里塚松かさり、みかん、ごまめ、数の子、硯蓋所々に置、御雑煮、口取、箱入赤飯の大暖かなるに、御すもしの箱入、よくうれたり。食堂の飾ハ実に見さむる計也。夜九時全畢。

*脊景(背景) *宝さがし(搜) *木花咲邪姫命(木花咲耶姫命) *松かさり(松飾)

一月十七日 丁丑 日曜 晴。

十二時より青松寺に参詣す。空也の最中二籠を会員え出す。四時、畢而帰。

一月十八日 戊寅 月曜 雪。

課業例の如し。正子、早苗と代々木え行。朝九時頃より雪降り出し、積る事五、六寸。

一月十九日 己卯 火曜 陰。

課業例の如し。夜、大風雨、霰も交る。この時、

出て、みよ吹きすさむ風雨あれのみなのりの声にそ有かな
この夜通しの雨風にて、三度の深雪も奇麗に消はてたり。

一月二十日 庚辰 水曜 晴。

課業例の如し。来客、少女の友星野久。

一月二十一日 辛巳 木曜 晴。

課業例の如し。

発信 関一郎氏え雪中松菓子、小包にて贈る。

一月二十二日 壬午 金曜 晴。

課業例の如し。来客、葉室後室、岡山近藤鈴。

一月二十三日 癸未 土曜 晴。夜あられふる。

午下三時より、常務員会を開く。宮原、橋本、角田、星野、今津、水上。夜八時退散。

*あられ(霰)

一月二十四日 甲申 日曜 晴。

来客、多気善助、同行人。久々の対面にて、旧を語り時を移す。

発信 韓国俵氏え小包出す。

一月二十五日 乙酉 月曜 陰。

課業例の如し。午下、海事協会新年会二行、六時帰。横浜原別荘守山本氏死去二付、香料三円を使用して出す。

受信 岡山津田氏より、網ジャコ一桶着。

摘要 海事協会、午後一時より。

一月二十六日 丙戌 火曜 晴。

課業例の如し。来客、田島春子。京城俵松子より寄附申込、一口也。

一月二十七日 丁亥 水曜 晴。

課業例の如し。来客、石山すま子。午下五時より、予、正子、李子と同しく有楽座に伊国震災慈善演劇を見る。九時帰。

一月二十八日 戊子 木曜 雪。昨夜あられ積る。

課業例の如し。また雪降り来りて、予、齒痛にて中村え行、治療す。野村靖氏葬送二付、代理者を出す。

一月二十九日 己丑 金曜 晴。

発信 京都五百川巖村集の返書出す。

一月三十日 庚寅 土曜 孝明天皇祭。晴。35(度)。

朝来、揮毫ものす。

一月三十一日 辛卯 日曜 晴。

来客、大村夫人、小早川夫人、万里伯、岡崎忠子。午下、御影堂榛原二買物して帰。

(二月)

二月一日 壬辰 月曜 晴。

課業例の如し。来客、伊藤富貴、其女松子、入学願二来る。

二月二日 癸巳 火曜 晴。

課業例の如し。予、眼病二付、明々堂二行、治療す。

二月三日 甲午 水曜 雨。

課業例の如し。正子、落合村長尾氏え行て、夕方帰。

二月四日 乙未 木曜 晴。

課業例の如し。正午より俄然風雪、已而晴。午下一時より浅草本願寺にて奥村五百子三周年忌二付、参詣す。法主導師にて読経あり。愛国婦人会員多数参詣ありて、三時帰。帰途、明々堂に行。

二月五日 丙申 金曜 晴。
原美子、角田栄子、村井孝子、書画の入門す。
訃音、天下茶屋寺田きみ、一月廿八日死去。岩野準子、四日死去。

二月六日 丁酉 土曜 晴。
来客、片山かめ子、石山基陽。午下、明々堂二行。
受信 米国津田より写真着。
発信 寺田氏え香料為替、金五円出す。

二月七日 戊戌 日曜 晴。
朝、中黒え。撮影する。
受信 上海さゝ木より写真及書至。
*さゝ木(佐々木)

二月八日 己亥 月曜 晴。
課業例の如し。来客(以下、記述ナシ)。
受信 土井氏より、するめ、書状着。秋田千田氏、書至。
発信 土井氏、返書。上海さゝ木氏え返書。
*さゝ木(佐々木)

二月九日 庚子 火曜 晴。
課業例の如し。李子、早朝より葉山浜荻さまえ行、夜帰。故愛四郎三回忌志、夜の梅三棹箱入、神代郁之進及遠藤氏え小包にて出す。熱海鳥尾子えまめ、ヒスケ出す。
*ヒスケ(ヒスケ)

二月十日 辛丑 水曜 晴。寒甚。
課業例の如し。来客、西川道子。李子、堀田家に行。本年も学期入学申込満員二付、日々断二困却。

二月十一日 壬寅 木曜 紀元節。晴。暖。
憲法発布式より廿年記念日二付、東京市中賑はしく。朝十時より佐野延勝男を訪ふ。隠居新子さま大ニ悦しく。談語に時を移し、是非々々午餐をとて、馳走に逢ひて、一時帰。帰途酒井伯を訪ふ。伯ハ本月四日より奥津転地にて御家令近藤氏に逢て帰。昼時より雨降出し、少しにて止。故愛四郎三週年志雪齋盆十枚、或ハ五枚、箱入配らせる。

*奥津(興津) *三週年(三周年)

二月十二日 癸卯 金曜 晴。寒甚。
課業例の如し。角田、原、村井氏稽古する。桃子、堀田氏へ行、一泊。

二月十三日 甲辰 土曜 晴。甚寒。

課業例の如し。来客、桜井とみ子 入学頼みに来る、酒井伯家令近藤薫、安部基安。桃子、堀田伯家二行、一泊。正子方々に行。万里伯来。此度きみ子、矢来酒井伯と婚約済ひたる由、表向申告らる。

二月十四日 乙巳 日曜 晴。

樗会。朝十時より、大和田氏来。五年生参集す。四時畢。来客、今津久子。桃子、堀田家二行、一泊。

受信 秋田千田より、かちん着。

二月十五日 丙午 月曜 晴。

課業例の如し。万里きみ子え御祝物する、正子も。来客、諏訪夫人。佐伯外浪。

二月十六日 丁未 火曜 晴。

課業例の如し。来客、群馬県館林小学校長橋場兼吉。桃子、堀田より帰。

二月十七日 戊申 水曜 晴。

課業例の如し。来客、重威 昨日房州より帰京、石井初子、清水初子、酒井家近藤薫。

二月十八日 己酉 木曜 晴。

課業例の如し。故愛四郎三周忌二付、霊前祭りをなして、家内一同打寄、其当時の事共語り合ひ、読経などにて夜一時迄通夜する。

二月十九日 庚戌 金曜 雨。

課業、昼迄。午下一時より挙家一同光円寺二行。二時より故愛四郎三周年忌を営む。会者、姉小路夫婦、良子殿代理、石山吉子、基陽、大炊晨子、岡崎忠子、玉枝、久米代理、原氏、清水初、重威、仁科駒。四時畢而、一同来宅す。中餐を饗す。宮原氏、愛四郎生前をかたりあひて、夜九時一同退散す。

二月二十日 辛亥 土曜 晴。

午下二時より山片菊女法事を光円寺にて営む。施主花蹊、正子、重威、早苗、姉小路信子、石山晨子、玉枝、駒女、北村也。読経済て、三時過帰。来客、茨木県人（以下、記述ナシ）
*茨木県（茨城県）

二月二十一日 壬子 日曜 晴。
終日揮毫す。来客、重威。明日帰房す。

二月二十二日 癸丑 月曜 晴。
課業例の如し。

二月二十三日 甲寅 火曜 晴。
課業例の如し。

二月二十四日 乙卯 水曜 晴。
課業例の如し。

二月二十五日 丙辰 木曜 晴。
朝、閑院宮様え参り、松井氏ニ面談して帰。来客、木村松子、万里小路喜見子。課業例の如し。

二月二十六日 丁巳 金曜 晴。
原、角田、村井、稽古に来る。午下二時より跡見玉枝の家に行。伯母千賀子十年祭ニ付、招かる。素謡仕舞もありて、夜八時帰。
摘要 榲料、三円。

二月二十七日 戊午 土曜 晴。
来客、星野花子、御礼に来る。五年塾生写真に行。夕景帰。

二月二十八日 己未 日曜 雨。
三ノ谷原氏よりの約束、梅見の筈、朝より雨にて中止する。角田氏夫婦、板垣静子、跡見玉枝、井深氏、予の六人の同行者、楽しみたる甲斐なく、残念々々。

(三月)

三月一日 庚申 月曜 晴。

本日より、卒業製作の画の手本を出す。来客、万里小路喜美子、御礼に来る。栄御供也。
午下早々、鍋島邸に行。朝鮮宮内大臣閔丙奭、千尚宮、吳尚宮、外夫人を招かれ、東洋婦人会よりも人形類を贈る。種々談話もありて、三時帰。

*宮内大臣(宮内大臣)

三月二日 辛酉 火曜 雨。

課業例の如し。午下、堀田伯邸二行。喜美様の御拵大てい揃候よしにて拝見す。裏松千代様御出にて、御同様に見る。十五荷と云。四時帰。本日より瓦斯灯を不用、電気とする。

三月三日 壬戌 水曜 晴。

課業例の如し。雛祭にて子供たちを招く。李子、堀田家二行、一宿す。訃音、加茂水穂一日死去、五日葬式。

発信 長門伊藤宗琢え画出す。

三月四日 癸亥 木曜 晴。41(度)。

課業例の如し。午下三時より、加茂氏え悔二行て帰。竹田宮王子御降誕あらせられる。

三月五日 甲子 金曜 陰。41(度)。

原、角田、村井孝、同千代、教授する。千代入門す。書画とも。午下二時より閑院宮様に参殿す。殿下に拝謁す。明六日、赤十字総会二付、御発車、岡山、熊本、岐阜の三県え成らせられ(ママ)るゝニ付御暇乞申上る。大坂質商総代為村佐一郎より書至。

受信 水薬師寺より書至、及昆布。

摘要 午下二時より村井氏招待。

三月六日 乙丑 土曜 陰。

課業例の如し。

発信 来栖氏え書をよす。

三月七日 丙寅 日曜 陰晴。

朝、約の如く八時出門。予、石山氏、井深氏と同しく電車で新橋九時発車、少し遅れて三十分乗車。玉枝ハ九時に乗たるや、居られず。横浜に着。馬車二台迎ひ来りて、三ノ谷二行。梅林迄、安子、春子迎えられて逍遙す。梅ハ五分の見頃なから異香につままれつゝ、待春軒より主人の案内にて、横笛庵、山里、古寺堂の古仏等拝見して、見る物鑑賞しつゝ、寒月亭にて御昼会席、雑談に時移して、山上の支那館、日本館、厩上の茶室より根岸、金沢の遠望の真景をみて、御谷館に上り、寒月亭に帰りて、御八ツ、汁粉、御でんにて、五時過話別して、又馬車にて汽車迄送られ、七時過皆帰。桃子、堀田伯え行、一泊。

受信 徳富猪一郎氏、絹本着。

三月八日 丁卯 月曜 陰雨。

課業例の如し。来客、別府徳子。

三月九日 戊辰 火曜 晴。

課業例の如し。来客、万里伯、川上孤舟。
受信 万里伯より招待状来る。

三月十日 己巳 水曜 雨。

課業例の如し。雨、終日降り通したり。

三月十一日 庚午 木曜 晴。

課業例の如し。午下二時より、予、李子と同しく、小林写真店二行、最影して紅葉館二集る。万里小路家里開を紅葉館二催さる。酒井忠道伯御夫婦、忠克新夫婦、二、三、四男及令嬢御兩人、宗夫婦、伊藤子御隠居、二条男御夫婦及御家来。万里家側二は、堤夫婦、井伊子、堀田伯夫婦、和さま、裏松夫婦、関子、葉室後室、予、桃子、万里伯、其外家来分と也。親戚之酒宴有て、例の紅葉踊二番賑々敷済て、八時開く。
摘要 午下三時、万里家里開二付、紅葉館二行。

*最影（撮影）

三月十二日 辛未 金曜 雨。

角田、原、村井、三人。光子入門す。李子、朝より横浜二行。

三月十三日 壬申 土曜

本日、五年生卒業製作画揮毫。

三月十四日 癸酉 日曜

卒業生製作画、終日にして出来。

三月十五日 甲戌 月曜 晴。

五年通学製作画揮毫。

三月十六日 乙亥 火曜 晴。

五年色紙揮毫。午下三時より常務委員、角田氏、星野、宮原、水上、石山にて祝賀会相談、愈五月九日治定す。来客、志賀清子、跡見玉枝。

三月十七日 丙子 水曜 雪。41（度）。

朝起。雪積事三寸計り。実に珍らしく、寒気も又甚しく堪かたく覚ゆ。

受信 沼津姉小路さまより鱒の干物、しらすほし、御文着。

三月十八日 丁丑 木曜 晴。

課業、四年たにさく揮毫試験。

発信 沼津御用邸姉小路良子殿え返書す。

*たにさく(短冊)

三月十九日 戊寅 金曜 晴。

午前十時より、予、酒井伯家に披露祝宴ニ応す。李子ハさし支ニテ、午後早苗を連れて行。

大広間にて親戚を招かる。実に盛大なる者也。午餐会盛式済て、午下一時より園遊会。庭

園之モキ店等、能準備齊ひ、余興もアリ。四時、食堂開らけ、桜花の爛熳たる大木二株、

造花を付したり。五時相済。来客、京都多気善兵衛、其妻、南部慎太郎。

摘要 午前十時より酒井伯招待。

*モキ店(摸擬店)

三月二十日 己卯 土曜 雨。午下三時頃より雨ふり出して、夜すからふり通したり。

中島氏倫理聞く。来客、石山すま子。祖先祭り執行す。例の生徒一同にすもし出す。

発信 鎌倉武内いくよえ。

三月二十一日 庚辰 日曜 晴。

春季皇霊祭。朝九時より、御殿山増田氏大師会ニ行、美術之真相なる古仏、古器、古書画

の名筆のみにて、一層之見識を得たり。園中の茶室九ヶ所にて、点もアリ。立食場にて鉄

はつにて暖き竹の子めしなど、趣向もの也。一時過帰り、途中宮島氏ニ寄而、一番町三井

氏ニ行。御惣領の誕生日にて、素謡及囃子仕舞等にて、九時帰。増田氏ニ小服に逢て云、

津田ハ四月十八日、汽船千代丸にて帰朝のよし申さる。

摘要 御殿山増田氏大師会。三井得右衛門氏囃子会。

*鉄はつ(鉄鉢) *竹の子めし(竹の子飯)

三月二十二日 辛巳 月曜 晴。

朝より直し物仕上る。午下一時より卒業生、裁縫教場にて送別会を催す。活人画、琴合奏、

喜劇等七番アリ。茶菓、御すし、せんへい、みかん、蒸菓子、洋菓子の饗応、五時畢。

三月二十三日 壬午 火曜 晴。

星野貞子、解雇す。

三月二十四日 癸未 水曜 晴。

明日準備二忙がし。

三月二十五日 甲申 木曜 晴。

第廿二卒業証書授与式執行。午下一時、式場ニ職員、生徒一同参集す。本年八庭の運動一面に天トウヲ張詰、式場大ゐに広く、すへて順序よく出来たり。第一、校歌、卒業生証書授与、三宮殿下証書奉呈、四、三、二、一年生証書授与、優等生、勉学証、畢而校長、卒業生に告る辞を朗読、吉田福子答辞を読む。実に感に堪たり。満場皆泣く。卒業生唱歌、全生徒唱歌にて、来賓角田氏演舌、須川氏も。式全畢、楼上にて菓子及寿もしを出す。本年、習字教場半仕切して、両面に卒業生絵画、及裁縫、及細工物、四、三、二、一年の書画を展覧す。卒業生四十九人、優等生、吉田福、船津、横川、(空白)、四人也。
*天トウ(テント)

三月二十六日 乙酉 金曜 晴。夕景よりみそれ、其内雪ニ成る。

早起。墓参して帰。塾生続々帰省す。終日多忙を究む。油絵展覧会に校舎を借す。廿八日より開場準備。

*みそれ(曇) *借す(貸す)

三月二十七日 丙戌 土曜 晴。

早起。昨夜雪積。予、伝記しらへかける。来客、跡見玉枝、長尾収一、岡崎忠子。洋画展覧会準備、徹夜せられたり。

受信 中井敬所篆刻もの持せ来る。

発信 中井氏え返書す。

三月二十八日 丁亥 日曜 晴。

洋画展覧会開始。朝九時より、予、李子と同しく、日本橋俱樂部に行。星の氏、角田氏も来られて、祝賀会場をみる。至極適當。こゝに決定す。昼飯済して、大井村二行。昼十二時より、二人引車にて大井村清水氏に行。さてく遠き事也。素謡会にて、三井得右衛門、英之助、板垣夫婦、玉枝、絹江等にて、終日楽しみ、夜九時帰る。

摘要 大井村清水氏素謡会。

*星の(星野)

三月二十九日 戊子 月曜 雨。

午下一時より、婦人發起人会を開く。来会者、島田信子、志賀鉄千代、渡辺玉子、茂木栄子、星の花子、大村梅子、小早川式子、角田、星野氏、祝賀会の相談。愈五月九日、日本橋俱樂部と決定す。夜八時畢。来客、橋岡久太郎。

*星の花子(星野花子)

三月三十日 己丑 火曜 雨。
此日、雨にて長尾氏行止、断りの使出す。
摘要 落合長尾氏行。

三月三十一日 庚寅 水曜 晴。
朝十時頃より、余、正子、早苗と同じく、落合村長尾氏二行。予ての約束にて、石山すま子、岡崎忠子も来られて、昼飯を饗応せられ、夫より近郊逍遙して、たんぽ、ふき等摘て帰。午下五時過帰。

*たんぽ(たんぽ)

(四月)

四月一日 辛卯 木曜 晴。

朝より桃子、残り生徒を拉して、横浜三の谷原氏え行、夜九時帰。予、美土代町協会二行、田村氏を問ふ。長子病氣にて、操さま二逢て帰。

四月二日 壬辰 金曜 晴。天気実に晴朗、風なし。

朝十時より約の如く、予、正子、早苗を拉して代々木石山氏二行。御昼呼れて大炊御門氏二行。暫時にして、銀世界逍遙す。三十七、八年振にて梅を見る。樹木も老て面白く、残花もあり。掃除奇麗にして、生徒の遠足には至極妙也。ゆる／＼と遊ひて、大炊氏に帰り、種々有かた咄しに長き日も遂に暮、夕餐を饗せられ、ゆる／＼遊ひて九時帰。

四月三日 癸巳 土曜 神武天皇祭。晴。

終日、伝記しらへにいそかし。

四月四日 甲午 日曜 晴。

終日、伝記にいそかし。来客多し。展覧会、今日を閉会とす。縦覧人を、殊の外多く、千八百人余と云。画もよく売れたるよし也。跡かた付も出来たり。午下より実業日本社少女友大会に付、出席す。面白く感したり。五時帰。

四月五日 乙未 月曜 晴雨定まらず。

朝より入塾生続々来る。大多忙。京都十松屋、祝賀会扇子二千本あつらへる。庭の花はしめて開く。二、三りん。

*二、三りん(二、三輪)

四月六日 丙申 火曜 晴雨さたまらず
授業はしめをなす。朝八時三十分、生徒登校。新入生に面会す。内海寿子の交代、熊子。
裁縫助教、二人。来客、大炊晨子、石山吉子。学校会計懸、高橋七兵衛。
受信 米国津田より書至。

四月七日 丁酉 水曜
課業例の如し。来客、内海静。過日帰朝二付、面談す。
発信 米国津田え返書出す。

四月八日 戊戌 木曜 晴。
課業例の如し。午下、大炊氏に行て帰。江戸川の花、咲出たり。来客、土井早苗。田鶴子
の入学願に来る。

四月九日 己亥 金曜 晴。
角田栄子、稽古する。午下早々、光円寺にて故石山延子様の十七回忌法事二逢て、三時帰。

四月十日 庚子 土曜 晴。
久々の催しにて、素謡会す。午下一時より。来会者、茂木栄子、山中栄子、岡崎忠子、石
山すま子、板垣静、三井得右衛門、橋岡久太郎。

雲雀山 栄子 角田川 中山 芹刈 板垣 熊野 すま子 桜川 花蹊、玉枝も
夜九時畢。来客、土井早苗、田鶴子、浦母堂。吉田福子、其母と御礼二来る。

四月十一日 辛丑 日曜 晴、風。

朝より堀端に一週して帰。実に満開。堀端のわたりより東宮殿下、伏見宮、弁慶橋辺、尤
妙。山王より東伏見宮、御茶の水、樹木も立栄えて、尤妙々也。午下、日本橋倶楽部に杉
風会浄瑠璃大会にて、実に感に堪たり。十一時帰。兼題、春祝。色紙短冊随意。

摘要 黒田清綱翁八十賀会、上野常盤花壇。

*一週(一周) *わたり(辺り) *浄瑠璃(浄瑠璃)

四月十二日 壬寅 月曜
課業例の如し。

四月十三日 癸卯 火曜 晴。
課業例の如し。午下三時より、角田氏、星野氏、橋本氏、宮原氏、中村氏、増田氏、今津
氏、水上氏にて、大会之準備相談す。夜八時済。来客、石山よし子。堀内千穂子、其母と
此度縁談整ひたる御礼に来る。

四月十四日 甲辰 水曜 晴。

課業例の如し。午下より閑院宮に詣し、両殿下に拝謁して、御庭の花爛熳たり。種々花を戴て帰。李子、石山氏、日本橋俱樂部に行て帰。堀内千穂子え松魚一箱、帛紗箱入。

四月十五日 乙巳 木曜 晴、風。

課業例の如し。志賀氏講話。橋本太吉氏、宮原氏、二時より来りて、大会の準備する。夜九時迄。

四月十六日 丙午 金曜 晴。

朝、角田栄子、孝子、光子、稽古する。大和田氏来り、大会の相談する。

四月十七日 丁未 土曜 晴。

午下一時より田畑岩倉子爵邸に於て、浅草婦人法話会廿三年記念会ニ出席。予、式辞を朗読す。天気もよく、盛会也。四時帰。島田信子、志賀鉄千代、会の相談する。六時帰る。

*田畑(田端)

四月十八日 戊申 日曜 晴。夕景より雨降り出したり。

朝、和田倉の土手の松、写生に行て帰。来客、長尾数子。午下五時より、予、桃子と同じく、霞ヶ関大谷伯を訪ふ。御不在にて帰。芝区三縁亭にて、保田次郎、堀内千穂子と結婚披露会ニ行。十時帰宅す。京都十松やより、扇子見本着。直ニ返事する。

*十松や(十松屋)

四月十九日 己酉 月曜 晴雨定まらず。

課業例の如し。京都十松屋え包紙の事、至急申遣たり。松の図にかゝる。

四月二十日 庚戌 火曜 晴。

課業例の如し。正子、早苗、朝より平川町石山家に行。桃子、午下松井氏ニ行。朝、下婢まちの兄死去のよし、申承り、直ニ国元ニ遣し候。下婢民来る。招待状見本来る。直ニ返事する。

*平川町(平河町)

四月二十一日 辛亥 水曜 晴。

課業例の如し。岡田、福井より見本来る。閑院宮松井氏、祝歌さし上る。

四月二十二日 壬子 木曜 晴。

課業例の如し。絹本松之図、揮毫ニかゝる。千家多嘉子結婚ニ付、白絹一反、松魚二円。

四月二十三日 癸丑 金曜 雨。終日雨。

栄子、春子、孝子、光子、稽古する。午下、松の揮毫す。来客、黒沢礼吉妻織子御札に来る。内海氏え白紋羽二重、紕地四愛図一枚を贈る。

四月二十四日 甲寅 土曜 晴。

中島氏講和きく。松之図落成。直に今津氏え渡す。来客、星野錫氏 大連え旅行ニ付暇乞に来る、大村むら子、横田縫子 出生の長男を連来る、加茂富子、高橋タクヤ妻、星野花子、林信子 其母と、小林鍾吉。

受信 重威より書至。

発信 重威え返書。

*講和(講話)

(四月二十五日、記載ナシ)

四月二十六日 丙辰 月曜 晴。

朝九時出門。予、正子、桃子、石山と俱樂部に下見分に行。集る者、角田氏、増田氏、宮原氏、発起人共三十五、六名にて、協義す。一時半、全畢る。小常盤にて午餐して帰。桃子は紀念物品買に行て、夕景帰。

*協義(協議)

四月二十七日 丁巳 火曜 晴。

課業例の如し。午下、正子、桃子、三時三十分出發、内海氏広島え出立に付、見立に行。来客、岡崎忠子、長松菅子、原田照子。招待状発行す。

四月二十八日 戊午 水曜 晴。

課業例の如し。来客、島田信子、志賀鉄千代、校友会代表者として紀念品持来る。桐書棚、蒔絵硯箱付、黒檀棚、外ニ花籠を贈らる。

四月二十九日 己未 木曜 晴。

早起。四時より準備にかゝる。塾生一同五時出門。徒歩して飯田町二行、閑院宮茂子殿下成らせられる。六時三十分、汽車に乗す。通学生共三百三十人余、所々のつゝじ盛り、兩岸の初夏の気色見つゝ面白く、やかて国分寺ニ着。又徒歩して府中松本楼ニ一寸休憩して、玉川に行。川の流れ清く、河原の広き一望限りなし。千鳥の群居るも珍らし。御野立ありて、茂子殿下御休憩後、清き流れには入て、はや捕ふる事面白く、又こゝかしこに弁当を

つかふ。十時、松本より弁当持参り、茶などの周旋怠たらず。風吹すさみて、午後二時、帰途につく。三時、松本二着。其内細雨降り来りて、国分寺迄着。駅長別汽車を連結して、五時飯田町二着。先々無事を祝ふ。来客、千家信子、泉会代表者として、十八金時計鎖一箇を贈らる。北白川宮成久王、良宮内親王殿下と御婚儀相成たり。

*つゝじ(躑躅) *は入て(這入て) *はや(鮪)

四月三十日 庚申 金曜 雨。

朝、村井孝子教授す。午下二時より、予、李子と岩崎男邸に行。実に宏大可驚、庭中配地よろしきを得たり。擲擲花盛り、牡丹七千株と云。未曾有之花、雨を帯て殊に麗し。藤棚下の食堂見事也。洋館四層楼に登りて、眺望殊に無類。先東京第一と云へし。筆にはとても。所々茶室にて茶を喫し、飲を尽して帰る。六時過也。

摘要 高輪岩崎小弥太男、午下三時より。

*擲擲(躑躅)

(五月)

五月一日 辛酉 土曜 晴。

課業畢る。学校祝歌印刊に石山氏行。李子、女職員連て、倶楽部に下見二行て帰。午下六時、約の如く、角田氏夫婦来られ、新田純孝夫婦、寿子を連て来る。愈本日を以て李子の養女に貰受る事。始、親子の杯有。角田氏をはじめ、新田夫婦と杯事あり。御酌人靖子、早苗子、仕事す。復夕餐を饗す。八時めて度済。泰、夜汽車にて京都に行。

*めて度(目出度)

五月二日 壬戌 日曜 晴。

午餐、赤飯、焼物、おなます、御汁にて祝飯を出して、李子養女寿子紹介す。皆御めてたう申上る。午下、予、正子と三会堂二白馬会展覧を見る。閑院宮邸に詣し、御息所二拝謁、祝歌御下贈の御礼申上る。帰途、石山氏を訪て帰。

*めてたう(目出度う)

五月三日 癸亥 月曜 晴。

課業例の如し。祝物使者等続々来。来客、倉持長子の義娘、及須藤娘母と来、入塾、通学願来。

(五月四日、記載ナシ)

五月五日 乙丑 水曜 晴、後雨。

課業例の如し。午下二時より巢鴨松浦伯園遊会二行。四時頃より雨ふり出して已而帰。摘要 松浦伯園遊会、午下二時より。

五月六日 丙寅 木曜 雨。

課業例の如し。来客、原氏使小池清女、原氏より紋縮緬鼠色紋付袴、対下着、同袴、同黒紋付袴羽織、緋紋縮緬袴袴、帯、扇子一对、祝賀二付て祝下される。中山栄子使、岩崎小弥太使、裏松千代子、中村芳子、志賀重昂氏。

*緋紋縮緬袴袴(緋紋縮緬袴袴) *祝下される(祝下される)

五月七日 丁卯 金曜 雨。

村井氏、孝子、教授す。本日、日本橋俱樂部にて集会。九日の相談に、桃子、石山行。

五月八日 戊辰 土曜 晴。

雨始めて晴。明日の準備齊ひたり。閑院宮妃殿下、御祝歌出来、唱歌練習あり。又、予の略曆も出来す。

*略曆(略歴)

五月九日 己巳 日曜 晴。

天晴朗。午前九時より日本橋俱樂部に行。門前盛也。跡見花蹊女史古稀と創立三十五年の祝賀会、門前に大国旗、桜紋とを交叉し、周囲には紅白の幔幕を打廻らし、午下一時より男子ハ洋館に、女子ハ階上階下日本座敷の大広間とし、庭上に式場を設け、一時三十分式始る。千家男開会の演舌、花蹊式辞、職員総代大和田建樹祝辞、渋沢男不参二付、角田氏祝辞代読、三宅花圃演舌、堀田伴子紀念品贈呈、大隈伯の演舌、花蹊答辞、九条公爵、同校の万歳、花蹊の万歳を三唱し、閑院宮妃殿下の唱歌いはひてうたへ、生徒一同。右畢而園遊会ニ移り、模擬店にハ、すし、そば、サイダ、宝煎餅、団子、甘酒、柏餅、薄茶室、ビヤホール、すゝめ焼、女生徒の撰たい百五十人、皆一生懸命にはたらく。美しく令嬢のみにて、ハイカラハ一人もないが当校の特色也。二時三十分より、余興。囃子、越英之介。能狸々、三井得右衛門氏。次、長唄賤はた帯、吉住小三郎連。次、清国人天一、英国人三国同盟と云手品の種々。次、政世、道成寺にて畢。食堂開らく。婦人ハ日本館階上階下、男子ハ洋館にて、五時半散会。来会者、千有余人と云。実に盛也と云へし。

*そば(蕎麦) *撰たい(撰待) *すゝめ焼(雀焼) *賤はた帯(賤機帯) *政世(政弥)

五月十日 庚午 月曜 本日休業。晴。

朝九時より、車にて鳥尾子、大隈伯、面会を得て、昨日の御悦。昨日ハ実に愉快にて不思議談を致したりとて、種々御咄し共承り、一昨間の余に及ふ。橋本氏にて、午餐を呼れて、

松尾男、三宅氏、九条様、志賀氏、閑院宮に参る。両殿下に拝謁仰せ付られ、暫時御咄し申上て、角田氏を問ふて帰。

*一昨間(一時間)

五月十一日 辛未 火曜
課業例の如し。

五月十二日 壬申 水曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。祝品飾付、写真二取る。来客、岡崎忠子、石山すま子、重たけ、治子、幾子、駒女。午下、堀田邸に研究会に参す。夕景帰。

*重たけ(重威)

五月十三日 癸酉 木曜 雨。
朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、万里伯、清水初子。

五月十四日 甲戌 金曜 雨。

有約、慰労会之筈にて、朝七時堀田伴子様御出にて、李子、正子、石山氏と四人連にて、新橋八時三十分發にて、江の島鎌倉行。予ハ雨にて、正子と替る。皆雨の覚悟。夜十時帰。来客、福田芳子、三浦光子、小田ましえ。

五月十五日 乙亥 土曜

朝雨、正午より霽。午下二時より、東橋サツポロ麦酒園中にて、棚橋總子刀自古稀之賀宴ニ行。四時半去て、小松宮邸に参る。大御息所に拝謁して、夕餐を戴て帰る。此夜より祝品取かた付、十一時臥。

*東橋(吾妻橋) *棚橋總子(棚橋絢子)

五月十六日 丙子 日曜 雨。

朝より祝品取かた付、始末する。

五月十七日 丁丑 月曜 晴。

課業例の如し。午下、大炊家政君来る。生徒に畜音器聞かせる。九時済。

*畜音器(蓄音機)

五月十八日 戊寅 火曜 晴。

課業例の如し。午下二時より、予、桃子と電車にて志賀氏四松菴築造開庵会ニ行。賓客徳川公爵、紀州侯、田安候を始として三十九名、日本建清籟書屋ニは、先露帝歴山第二世肖

像の衝立、其外種々の珍奇物陳列。南北亭の建築調具、陳列品ニ至る迄、尽く寒熱両帯の物はかりで、ヘヂン氏書の四松庵の額をはしめ、樺太のト、松、柱梁ハ南大東島の蒲葵樹、壁ハ淡路島の南おのころ島の砂、額ハ琉球中山王宮にあつた清朝冊封使全魁筆、加藤清正古戦場蔚山湾の鯨鬚、乃木大将の爾靈山高の詩を刻したる物、其外種々、庭にハ山谷重箱主人の鰻割の余興、夫から清籟書屋と南北亭の二ツに食堂開らけ、予等ハ南北亭、献立の珍珠ハ人魚、不老不死の薬と呼び、寒熱帯の珍珠、鰻の蒲焼、独逸の鯉のコクシヤウ、御土産には生たる鯉を籠に入れて頂戴すると云。八時過散会す。

摘要 代々木志賀氏新築落成会。

*紀州候(紀州侯) *田安侯(田安侯) *ト、松(榎松) *蒲葵樹(ビロウ樹) *
南おのころ島(南■●盧島) *コクシヤウ(濃漿)

五月十九日 己卯 水曜 晴。

課業例の如し。来客、石山吉子、駒女、田中芳子。

五月二十日 庚辰 木曜 雨。

課業例の如し。来客、加藤氏妻、東京毎日新聞水落幹郎。

五月二十一日 辛巳 金曜 晴。

角田栄子、村井孝子、教授する。本日午下四時より浜町岡田屋にて慰劳会す。会する者、中村元嘉、島田三郎、信子、角田真平、栄子、今津覚太郎、宮原六之介、橋本太吉、三井得右衛門、志賀重昂、鉄千代、越英之介、鳥尾光、千世子、泰、石山、水上、増田義一、浪江、渡辺玉子、諸葛、岩浪稻子、松平鞆子、茂木栄子、門野玉子、美野部姑子、藪篤子、来栖貞子、千家信子、予、桃子、玉枝、仁科駒、三十七人。始、小三落語二席、食事始る。拝領銀杯ニテ九献一順廻る。予、仕舞芦刈、玉枝、桜川、英之介、ほうか僧、三井氏、田村切、駒女、道成寺、栄子、独吟鉢木、栄子、花圃女史、勧進帳、駒女、海士、御所車。此余興に皆驚入たり。一同飲尽して、十時後散じたり。来客、重威、姉小路。

摘要 慰劳会、午下三時より。

*美野部姑子(美濃部姑子) *ほうか僧(放下僧)

五月二十二日 壬午 土曜 晴。

朝より、角田栄子、昨日の御礼に来る。午下より、島田信子、松平鞆子、志賀鉄千代、赤倉竜子、美野部姑子、高辻重子。

*美野部姑子(美濃部姑子)

五月二十三日 癸未 日曜 晴。

朝より、藪篤子、鳥尾智世子。午下一時より、予て約の如く、予、桃子、寿子と新田氏え

初客に行。角田栄子、新田氏純孝をはじめ大に悦はれ、大歓迎。家の重宝飾付など拝見致して、皆逸品なるものにて、舌を巻きたり。後、酒肴にて夕餐を饗せられ、六時頃帰。

五月二十四日 甲申 月曜 晴。

朝、散歩して五軒町を訪て帰。課業例の如し。来客、重威、清水初、仁科駒。十三日、泰誕生日ながら新田行二付、本日にくり延し、祝宴洋食。

受信 大井町石母田きよみ死去、去ル廿一日午後二時。

発信 岐阜市川出岩え返書す。

*十三日(廿三日)

五月二十五日 乙酉 火曜

課業例の如し。来客、重たけ。久し振にて書写す。

受信 京都御寺御所より。

*重たけ(重威)

五月二十六日 丙戌 水曜 雨。

課業例の如し。来客、酒井喜美子。

五月二十七日 丁亥 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、中島行孝細君、諸葛益子、重たけ。李子、寿子、角田氏、橋本氏え御札に行て帰。書写す。

受信 清国西沢氏より。

*重たけ(重威)

五月二十八日 戊子 金曜 晴、風。

地久節二付、休業す。朝、散歩して帰。午下二時より、東伏見宮に参殿す。両殿下に拝謁して、種々御談話申上、御庭のいちごなり出たる盛なるを摘む事暫時にして二籠に満ちたり。両殿下も摘ませられ、面白く、其沢山にて限りなし。御畑は美人草のうつくしく咲きたるに、又白くジャガ芋の花いろ／＼の草花を詠めつゝ、御庭一周して御かたに参りて、御合のもの戴てまかる。それより、北白川宮様え参る。過日の御礼申上る。富子殿下、姫宮様かたにも拝謁す。幸有馬様御夫婦様成らせられ、久々に種々御咄しも申上、御合のものいたゞきて退りぬ。

受信 神代鶴子より。

摘要 東伏見宮様え参殿之事。

*いちご(母)

五月二十九日 己丑 土曜 晴。

朝散歩して帰。書写す。午下一時より、向島八百松に於みて、福田重固氏喜寿賀会二行。来賓大勢、素謡もはしまり、婦人かたにて、予、熊野、仙場、弱法師等あり。万三郎、六郎の松風、是聴ものなり。畢而仕舞等十五、六番もありて、食事はしまり、十時過退散す。受信 西沢公雄より蜀紅錦一卷着。石沢氏、書状着。

摘要 午下三時より向島八百松にて福田重固七十七祝賀会。

*はしまり(始まり) *蜀紅(蜀江)

五月三十日 庚寅 日曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、小畑なつ、中村元嘉氏、由比少将、仁科駒及嫁、長尾数子、雄、増田浪江、富長園子。予、園同道にて閑院宮様え参り、妃殿下、姫宮殿下に拝謁仰付られ、姫宮様かた、今後御教育申上る御約御請申上、拝領物も有て、退り下りぬ。

受信 木津跡見より書及そら豆着。

発信 木津跡見え紋羽二重一反、扇子二本出す。

五月三十一日 辛卯 月曜

課業例の如し。書写す。

受信 米国よし子より書至。秋田千田勇子より短冊箱着。

発信 木津跡見え返書す。米国津田え返書。清国西沢公雄え。

(六 月)

六月一日 壬辰 火曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。写書。

受信 御寺御所より書至。

六月二日 癸巳 水曜 晴。

朝、行楽して帰。書写す。課業例の如し。来客、橋本太吉氏細君、寿子の御祝として帯地一卷。夕景より神保町辺買物して帰。

受信 御寺御所より、そら豆着。土井氏より、バン茶、端書着。

*行楽(行菓) *バン茶(晩茶)

六月三日 甲午 木曜 晴。

朝、行楽して帰。課業例の如し。書写す。

発信 土井氏、御寺御所え返書す。

六月四日 乙未 金曜 晴。
朝、行薬して帰。書写す。栄子、光子、千代子、春子、教授す。来客、岡崎忠子、千家信子。

発信 青森県野呂善作え絵はかき出す。宮田さわ子行、色紙出す。
*絵はかき(絵端書)

〈写真ページ1ページ挿入〉

六月五日 丙申 土曜 晴、后雨。

朝、行薬して帰。書写す。松方増子の事あり。来客、長尾収一氏。

受信 跡見法専より。新潟遠藤貫三郎、書及色紙短冊着。

六月六日 丁酉 日曜 雨、后晴。

朝九時より、予、李子と同しく、靖国神社能楽堂二行。幸流小鼓宗家再興祝能。翁、加茂、景清、三井寺、七騎落、善知鳥、船弁慶、囃子 草子洗を始め十五番。十時帰。紀念帛紗、三越より持参る。

六月七日 戊戌 月曜 雨。

課業例の如し。来客、明治十年頃美術科受持佐野茂弟嫁なる松岡花子ニ対面す。

六月八日 己亥 火曜 晴。

課業例の如し。本日より祈念にかゝる。来客、新田母と妹正と。

六月九日 庚子 水曜 雨。

朝、行薬して帰。課業例の如し。終日雨ふり通したり。

六月十日 辛丑 木曜 晴。

朝、行薬して帰。課業例の如し。矧川氏講話アリ。午下より、石山氏、高橋氏、区分して祝賀会返礼之帛紗及扇子を配りに出懸る。

受信 跡見法専より書至。

六月十一日 壬寅 金曜 晴、后雨。

朝、行薬して帰。書写す。角田栄子、村井孝子、原春子、稽古す。午下、竹細工買物二行。予、正子と同道す。石山を問ふ。不在にて不逢。帰途、平川天神前を通行之時、山田倉太郎の表札ありて、同氏を問ふ。実に久々にて、富子、倉太郎氏と談話して不止、其内雨降

り出して、夕飯を呼れ、入夜而帰。此日も石山氏、高橋氏、朝より配り物に行。

六月十二日 癸卯 土曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。中島氏之倫理を聞く。泉会、大隈伯講話を願ふ。一時頃、御来臨にて、報知新聞社江森泰吉氏も来られる。泉会員も来集。伯の演舌あり。畢而園中にて一同撮影す。四時退散。角田真平氏来られる。

六月十三日 甲辰 日曜 曇、晴。

朝、散歩して帰。書写す。十時より村上專精氏の東洋女学校開堂式に列す。十二時帰。午下一時より東宮御所に参る。万里小路幸子様は御目にかゝりて、種々御閑話申上、御合のもの戴き、四時過退。閑院宮様へ参り、御息所に拝謁して、いづれもさまえ紀念の帛紗献上する。夕景退出す。朝より、李子、志賀鉄千代と同行、熊谷齋藤氏へ出向、夜帰。来客、佐野新子。

受信 石沢尚子より桜も、一箱着。大坂跡見より白木綿三疋着。

摘要 東洋高等女学校、午前九時開堂式。

*桜も、(桜桃)

六月十四日 乙巳 月曜 晴、風。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。来客、堀内千穂子。

宮中親任式。任枢密院議長、伊藤博文公。任統監、曾根荒助。

発信 大坂跡見え書をよす。万里幸子さまえ、石沢尚子え、山田富子え。

六月十五日 丙午 火曜 晴。

朝、墓参して帰。書写す。課業例の如し。来客、石山吉子。石山、高橋、配ものに行。

六月十六日 丁未 水曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。午下、愛国婦人会ニ会す。重要事件ニ付、評議する。四時帰。

宮中親任式、任宮内大臣、岩倉具定。

六月十七日 戊申 木曜 小雨。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。午下、李子と同しく、上野健筆会を観る。又研精画会をみる。評すへきものなし。精養軒にて晚餐を喫して、散歩して帰。発信 越後遠藤貫三郎え色紙短冊出す。鳩山え返書す。

六月十八日 己酉 金曜 晴。

朝、散歩して帰。栄子、照子、教授する。朝六時過より日食。 来客、岩浪稲子。

李子、御所え参る。正子、代々木行、一泊。

六月十九日 庚戌 土曜 雨、終日。
中島氏講話を聞。朝、墓参して帰。書写。浅草婦人会不参す。予賀会二付、扇子八十本を
会員に配す。夜、揮毫す。

六月二十日 辛亥 日曜 晴。
書写す。朝、散歩して帰。予、李子と芝薫風会に行て帰。本願大谷光演御法主より、紅白
縮緬一疋、御祝として下さる。

六月二十一日 壬子 月曜 雨。
朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。

六月二十二日 癸丑 火曜 晴。
朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。午下二時より鳩山氏に行。婦人茶話会にて、四
十人余来参。面白き事也。四時去て、鳥尾子を問ふて帰。
摘要 午下一時半より鳩山氏茶話会。

六月二十三日 甲寅 水曜 小雨。
朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。来客、山田富子、山尾末子。李子、東宮御所に
参る。東宮妃殿下より花蹊え緋紋縮緬一疋御下賜相成る。

六月二十四日 乙卯 木曜 雨。
課業例の如し。堀田伯、此度御養子御もらい、明廿五日御入駕二付、松魚一折御祝する。
来客、三宅花圃、山田久子。
発信 万里幸子さまえ。

六月二十五日 丙辰 金曜 雨。
外来稽古、角田、村井孝、今津照子。書写す。
受信 御寺御所瑩堂百ヶ日 七月十日 遺物着。

六月二十六日 丁巳 土曜 雨。折々晴たり。
書写、又揮毫ものす。来客、新田純孝、東京毎日新聞記者石井佐助。

発信 御寺御所え返書。

六月二十七日 戊午 日曜 雨。折々晴れたり。雷鳴もある。
樗会、九時より始る。予も出席す。歌合当座等にて面白く、五時済。

六月二十八日 己未 月曜 晴。

課業例の如し。書写す。来客、岡崎忠子、堀田伴子夫人。

六月二十九日 庚申 火曜 雨。

朝、散歩して、牛天神に参詣して、中島哥子建碑式昨日有りたり、立派に建られたり。課業例の如し。書写す。来客、堀田伯御養子直言様、初対面。暫時にして、本日ハ所々え御廻り也。

発信 秋田財部梅子、返書。山中秀子え。

六月三十日 辛酉 水曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。来客、石山すま子。

(七月)

七月一日 壬戌 木曜 雨。

朝、墓参して帰。書写。本日より半日授業とす。横浜開港五十年祭、招待なから、雑沓をおそれて断りす。午下、予、正子と松屋に買物して帰。

七月二日 癸亥 金曜 雨。終日降り通したり。

角田栄子、暉子、孝子、教授す。

受信 木津美尾のより奈良漬着。

*美尾の(美尾野)

七月三日 甲子 土曜 晴。

朝六時強震ス。倫理二回。書写す。来客、レ、ン嬢、田中邦子。五時、予、李子と同しく、芝紅葉館二行。先、鍋島侯御夫婦、若御夫婦、池田後室、阿部夫人、鍋島直虎、鍋島連中、堀田伯御夫婦より、親戚四十人余也。九時宴席相済て帰。
摘要 午下四時より紅葉館に於て、堀田、鍋島両家之招待。

七月四日 乙丑 日曜 陰雨不定。
午下一時より、閑院宮に詣して、御誕生の姫宮様見上る。大御肥満父君によく御移り遊はされ、凜たる御顔つき也。暫時にして鍋島直柔子を訪ふ。昨日の御札申て、志賀氏に行。間宮林蔵先生の百年祭の事二付、談話を聞く。夫より鍋島侯に伺ひ、御夫人と暫時咄して帰。来客、石山すま子。

七月五日 丙寅 月曜 雨。
課業例の如し。書写す。

受信 播州島津岩城より小包着。
発信 播州島津岩城え返書す。馬場善兵衛え。美尾野忠兵衛え。

七月六日 丁卯 火曜 晴。
課業例の如し。書写す。夕景、予、弘を連て大炊御門を訪ふ。此度、北海道に出張命せられ、十日比御出發のよしにて、御餞別を持参して、暫時にして帰。来客、梶山氏。

七月七日 戊辰 水曜 雨。
課業例の如し。書写す。

七月八日 己巳 木曜 雨。
課業例の如し。来客、西川道子、万里通房伯。
受信 大坂山田重五郎より書着。

七月九日 庚午 金曜 雨。
栄子、春子、暉子、教授す。来客、岡崎忠子、原安子、小池清、石山陽、大炊家政。
受信 大坂山田重五郎より玉兔一冊着。

七月十日 辛未 土曜 晴らしく見ゆ。
倫理を聞く。書写す。来客、鷹見久太郎、鳥尾夫人。
受信 跡見暉一、書至。

発信 大坂山田重五郎え返書す。
七月十一日 壬申 日曜 晴。
午下、予、正子と上野辺買物に行て帰。
発信 神戸神代え中元物品出ス。房州跡見、万里小路伯え。

七月十二日 癸酉 月曜 晴。

課業例の如し。来客、石山すま子、橋本とも子。予、塾生、研究生、五年生、廿二年(ママ)、午下早々、代々木四松菴二行、間宮林蔵東韃行一百年記念祭、同先生遺物展覧、実に珍とするに足るもの也。四時去而五時帰。

七月十三日 甲戌 火曜 晴。

課業例の如し。来客、仁科駒女。正子、基威、上野二行。

受信 大坂一心寺但間きくより白木綿一疋着。

七月十四日 乙亥 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下早々中元に廻る。北白川宮に詣し、富君様に拝謁、二時間御咄し申上て退る。閑院宮様に詣し、宮様拝謁仰付られ、君様にも御尊にて、御一同様と種々御咄し申上て退る。三条様え参り、治子様、千代子様、御子さま方。九条様え参り、御不在中にて、東伏見宮様え参る。君様御所勞にて退る。夕景帰。暑さはしめにて絶かたく、風もなくて困る。

*絶かたく(堪かたく)

七月十五日 丙子 木曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。本日を以て、法華経第八卷共書写畢。

七月十六日 丁丑 金曜 晴。九十八(度)。

角田栄子、原春子、今津暉子、教授す。本日、井上氏米国より着二付、石山氏横浜迄出迎二行。無事着致されたり。

受信 岐阜川出岩より団扇、ハンカチ。桑港津田より貴重品着。

七月十七日 戊寅 土曜 晴。九十四(度)。

終日揮毫ものす。来客、北川氏。此夕、小服氏舎弟井上氏来られて、米国津田氏之事共承り、安神いたし候。同氏一宿致されたり。

受信 米国津田より書及絵端書、酒井きみさま行貴重品請取。

発信 岐阜川出いわえ文及品物出す。京都錦織さまえ返書。

七月十八日 己卯 日曜 晴。九十四(度)。

朝より、白沢病氣二付、国元より迎の医師番頭等来。先ニ無事出立致されたり、一安神。此暑氣にてハ廿四日迄ニは病人も出来る、廿日迄といくら云へ共、夫てハ規則を破ると云て不承知。云ひかひなくと泣寐入りたり。予、天に祈りて、

願はくは秋の大風少しつゝわけてもふかせしなどへの神

受信 大坂馬田氏。跡見三治郎より菓子着。

*ふかせ(吹かせ) *しなとへ(級長戸辺)

七月十九日 庚辰 月曜 晴。96(度)。

朝散歩、墓参して帰。課業例の如し。本日、掲示所に臨時休暇廿日よりと、生徒の悦ひ一方ならず。先々意旨もとゞきたり。天を仰て願はくはの哥ハ本日也。来客、台湾小畑駒三夫婦、倅共面談す。照世も連て帰る。

*倅共(倅共)

七月二十日 辛巳 火曜 晴。81(度)。

課業、本日を以て授業納めをなす。午下より塾生続々帰宅す。昨日に比し、頓に涼風ふき来り、蘇生の思ひなり。夕景より、予、早苗つれて電車涼みをして、日比谷園散歩、又電車にて帰。昨日の念願の哥、天に通したりけむ、今朝よりの涼しさハかく別也。

*かく別(格別)

七月二十一日 壬午 水曜 晴。朝、ぬかの様なる雨少し降而止。風少しもなく、むしろ暑し。85(度)。

早起。散歩して帰。塾生、五時より帰省之者もあり、大概午後迄に帰り候。午下四時より常務員会を開く。今津君、角田君、橋本君、宮原君、水上君、種々協義ありて、八時頃退散。

受信 秋田県大川兵蔵、書至。

*ぬか(糠) *協義(協議)

七月二十二日 癸未 木曜 晴。91(度)。

朝より絹本一枚揮毫す。

七月二十三日 甲申 金曜 91(度)。

微恙、終日臥。書写す。

七月二十四日 乙酉 土曜 晴。91(度)。

朝より絹本一枚揮毫す。書写。来客、門野玉子。基則子、祈念す。

七月二十五日 丙戌 日曜 晴。

朝、酒井忠克様、喜見子様、御夫婦にて御出ニ相成、九時より十一時迄、種々御咄し共に、御帰邸。

七月二十六日 丁亥 月曜 晴。

暑にあてられて臥。

七月二十七日 戊子 火曜 晴。九十(度)。
終日臥。

七月二十八日 己丑 水曜 晴。夜、風あり、殊にすゞし。九十二(度)。
早起。散歩して帰。微恙も全快す。

七月二十九日 庚寅 木曜 晴。90(度)。

早起。散歩して帰。揮毫もの、絹本扇面五枚。書写す。来客、裏松千代子。米国津田より杏子え写真五枚、書状着。此夜のむし暑く、実に堪かね、ウナリたる也。夜月清く、曇の上に松の陰あり。風少しもなし。

受信 京都大島芳之介より茄子と唐からし着。

*杏子(李子) *ウナリ(呻り)

七月三十日 辛卯 金曜 晴。月清くしてあつく。

有約、秋本子爵令息来られ、日英博覧会二付、女子部より出品之件、御頼みに相成る。朝五時出立、李子、靖子と房州え行く。泰、弘、寿子、靈岸島迄。正午、驟雨さつとふる。嗚呼と悦ぶ間に、二分位にて晴れたり。なにの事やら。

受信 電報、午後一時無事着房、杏子。

発信 京都大聖寺え千万の十三年二付、香料三円出す。

*秋本子爵(秋元子爵) *杏子(李子)

七月三十一日 壬辰 土曜 晴。十二時、一寸雨ふりて止。八十六(度)。

朝、散歩して帰。揮毫す。来客、香下みさを。大坂北区大火、本日朝四時より焼出して、終日火未沈静せず。

発信 但間きくえ書出す。山中秀え。玉泉寺え。

*沈静(沈静)

(八月)

八月一日 癸巳 日曜 雨。86(度)。晴雨不定、暑ハ変らぬ暑さ也。満月殊に清し。

朝、墓参して帰。揮毫ものす。裏松氏より電話かゝりて、直に車にて行く。相変らず、朝貌の大りん鈍白四寸八部と云、見事也。二時間計閑談して帰。大坂大火、今朝四時、漸沈静す。北区縦一里余、戸数二万余、惨状限りなし。早苗、岡崎子え行、一宿。

*鈍白(純白) *八部(八分) *沈静(鎮静)

八月二日 甲午 月曜 晴。86 (度)。

朝より千家男を訪ふ。奥様信子様二御目にかゝりて、暫時にして閑院宮に詣し、君様拝謁、御床払も遊はされ、御平常の通り御申分さまもなく結構。御子様御肥立御早く見上られる。それから石山氏を問ふ。すま子さまに逢て帰。大炊氏、姉小路を問ふ。大炊氏にて昼飯馳走に相成て帰。暑さ堪かたく。来客、石山吉子、安部もと安。早苗、二宿。

八月三日 乙未 火曜 85 (度)。

朝四時、散歩して帰。揮毫ものす。堀田正恒殿、先月三十日被叙従五位候二付、松魚一箱御祝申す。早苗、忠子様と帰る。

発信 房州李子え包もの出す。八軒え書出す。

八月四日 丙申 水曜 晴雨不定。84 (度)。

朝四時、散歩して帰。揮毫ものす。朝すゝしく、一時蘇生す。実に此暑氣ハ作物には此上なし。流行病もなく結構々々可喜。

発信 十二軒え。北秋田大川氏え額面出す。

受信 古屋朝子より反もの染来る。久岡あさより書至。

八月五日 丁酉 木曜 86 (度)。

朝四時、散歩して帰。絹本一枚揮毫す。来客、石山吉子、同基弘のみ一宿。朝より雨いく度か、一切りつゝ降りて晴、又ふり、終日くりかへしたり。

御召敷寄織単物と紹縮緬羽織仕立させる、普門え。

受信 房州李子より四日出五日着。

*くりかへし(くり返し)

八月六日 戊戌 金曜晴天ながら時々小雨ふる。

朝四時、散歩して帰。来客、長尾数子、雄のみ一宿。五島守光子、葉室経子。

受信 大東泰より端書着。一番町三井氏。

*五島守光子(五島盛光子)

八月七日 己亥 土曜 晴。88 (度)。立秋のしるしにや、夕景涼氣を覚ゆ。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。書写す。絹本、瀑布一枚、裏松氏えわたす。両国川開、好景氣也。

八月八日 庚子 日曜 晴。86 (度)。

朝、散歩して、角田氏、大炊氏を問ふて帰。書写す。居間畳表替す。朝涼氣を覚ゆ。帰路

熱甚し。石山基弘、長尾雄、早苗等、平川町石山え行。早苗は大炊氏二一宿す。来客、裏松千代子、阿部基安。
*平川町(平河町)

八月九日 辛丑 月曜 晴。84(度)。
朝より書写及揮毫ものす。

受信 大坂今幾多より呉服券着。

八月十日 壬寅 火曜 晴。90(度)。

朝、散歩して帰。書写す。午下早々、三井得右衛門氏本歌仙会二行。夜九時帰。李子、通俊弟と帰宅す。炎熱甚し。

*通俊(通利)

八月十一日 癸卯 水曜 77(度)。

朝、掃除等して、本日素謡を催す。岡崎忠子、石山すま子、予、李子と、午下早々はしめる。六番。夕餐済て、不言菴にて茶を入れて、八時半帰らる。通俊二宿。大坂火災二付、義捐す。金五拾円。校友会より金五拾円。大坂朝日新聞二出す。

受信 神代より桃とバナ、着。早々長与氏え使出す。

*バナ、(バナナ)

八月十二日 甲辰 木曜 晴。82(度)。

朝五時、通俊出立す。朝よりすくしくて、終日曇天。実に生帰りたる心地す。外の者たちハ、寒くて風引そふと云。通俊、朝五時出立して帰房す。

*通俊(通利) *帰り(返り) *通俊(通利)

八月十三日 乙巳 金曜 晴。86(度)。

終日揮毫ものす。故石山基則子三七日、念願畢。

受信 閑院宮姫宮三殿下より御書着。

八月十四日 丙午 土曜 晴。88(度)。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。小田原閑院宮御別邸え電話にて明十五日参殿之事申上る。明日の準備す。来客、石山基陽。夜八時頃より吐瀉切りして、医師も来りて種々手当する。夜通しなり。

八月十五日 丁未 日曜 晴。87(度)。

一時頃、全く快くなりて平臥す。

八月十六日 戊申 月曜 晴。86 (度)。
終日臥蓐。

八月十七日 己酉 火曜 晴。86 (度)。
ねたり起たり。

受信 唯専寺より雲丹着。

八月十八日 庚戌 水曜 晴。80 (度)。

早起。揮毫す。来客、宮原六之介。大坂唯専寺え阿波ちゝみ一反と返書出す。

受信 房州重たけより鯉佃煮着。直ニ返書す。

発信 山形県長井利右衛門え画出す。

*阿波ちゝみ(阿波縮)

八月十九日 辛亥 木曜 晴。88 (度)。

早起。散歩して帰。午前九時出門、新橋え行、実業団渡米者、渋沢男夫婦、神田乃夫夫婦見立る。実ニ盛況可驚。十時三十分万歳声中ニいさましく出発せられたり。已而帰。

八月二十日 壬子 金曜

早起。散歩して帰。諸国日照り積き、稲作も覚束なしと云。田ハ皆枯死、ひゝも入たるやの声切なり。本日より、水くまりの神え祈願す。日に一万遍の念仏して雨を降し給ふやうと、祈願怠らす。一週日。

*積き(続き) *ひゝ(罅) *水くまり(水分)

八月二十一日 癸丑 土曜 80 (度)。

朝、散歩して帰。明日、小田原御別殿え可参様、電話にて申上る。準備する。此夜、大膏雨、有難しとも有難し。

八月二十二日 甲寅 日曜

朝大雨。正子、早苗、石山威、三人連にて鹿島、香取方面に行。朝五時出立。予、李子、同道にて、朝六時出門。小田原閑院宮御別殿ニ参る。七時廿分汽車にて。此行も暑さ甚し。国分津より電車にて、御迎之人来られて案内、暫時休憩、御二所殿下、御子様、御一統拝謁、御機嫌よく成らせられ、種々御もてなしいたゝき、御昼餐後、両殿下御案内にて御庭の御模様も三年前とハすへてよく御手入に相成、其御広き事四万坪と云。空地なき迄に、五穀はしめ、野菜、果物植られたり。浩養閣前にて御八ッ戴き、四時五十分電車之筈、御辞義申上て。此時驟雨ふり出し、国分津にて晴たり。汽車に乗す。帰客はげしく、実に雑

踏、立往生と云。むし暑く、先々暑さの旅行ハ断念たるへき也。八時五十分、新はし着。九時半、無事帰宅す。

*国分津(国府津) *御辞義(御辞儀) *国分津(国府津) *新はし(新橋)

八月二十三日 乙卯 月曜 晴。
早起。散歩して帰。揮毫ものす。

八月二十四日 丙辰 火曜
早起。散歩して帰。揮毫ものす。

八月二十五日 丁巳 水曜 晴。月清し。大雨降る。80(度)。
朝、五時前より散歩して、大炊氏を問て帰。揮毫す。午下四時、正子、早苗、石山威、銚子より帰宅す。四時半、裏掃除町田山氏方火あり、雑沓す。

八月二十六日 戊午 木曜 晴。80(度)。
朝五時、弘、石山威、二人連にて房州へ出立す。朝五時、散歩して帰。揮毫ものす。佐藤芳治郎妻千代葬式二付、植草代理会葬す。本日にて満願成就す。諸作物蘇へる。

八月二十七日 己未 金曜 晴。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。李子、加茂氏移転二付、手伝二行て、一宿す。奥掃除す。来客、長尾収一、石山吉子、伴子。
受信 夜十一時電報、来栖福子死去、明日葬式す。

八月二十八日 庚申 土曜 晴。80(度)。
朝、散歩して帰。朝、李子、加茂氏え呼に使す。午下早々、横浜来栖氏え悔みに行て六時帰。八時、靖子、弘、威、房州より帰宅す。来客、大炊晨子。

八月二十九日 辛酉 日曜 晴。午下三時より驟雨、大雷鳴。80(度)。
朝より散歩して帰。揮毫ものす。来客、角田栄子、天津いよ子より、支那花瓶御祝にとて贈られもの持参いたされたり。

受信 中谷芳太郎より。
発信 跡見法専え。中谷芳太郎え。美尾野忠兵衛え。吉宗朝子え。

八月三十日 壬戌 月曜 晴。八十七(度)。
朝散歩して帰。正子、代々木石山え行。今朝の新聞にて、昨日の大雷雨、落雷十数ヶ所、二少年の震死。

八月三十一日 癸亥 火曜 晴。八十六(度)。
朝、予、李子と同道して、牛天神え参詣して、鮑兵工廳裏門ニ、昨日落雷之場所を見る。
ひの木の大樹さけ焼けたり。已而帰。揮毫す。
*鮑兵工廳(砲兵工廠) *ひの木(檜) *さけ(裂け)

(九月)

九月一日 甲子 水曜 晴。八十八(度)。

朝、散歩して帰。揮毫す。二十十日、厄日祈念す。風少し有。小雨も已にして晴、先々静
穏可喜。来客、黒沢氏祖母、橋田妻。

受信 平田貞子、水と落雷見舞。

九月二日 乙丑 木曜 晴。八十四(度)。

朝食後、予、弘と同じく、浅草幸竜寺墓参、本願寺別院墓参して帰。細雨、晴たり。来客、
宮里三木枝、海軍大将井上氏、孫女入学願来る。神代より牛の味噌漬着。

受信 財部梅子。

九月三日 丙寅 金曜 晴。

朝、散歩して、角田氏を問ふ。栄子さまのよろこひ一方ならず。まよ子とふたりにて、昼
飯をよはれて、午後二時過まで遊ひて帰る。正子、早苗つれて、大炊氏へ行、一宿す。

*よはれて(呼ばれて)

九月四日 丁卯 土曜 晴。

朝、散歩して帰。居間の大掃除する。来客、岡崎忠子、加茂富子。塾生五人帰塾す。

九月五日 戊辰 日曜 小雨。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。塾生続々帰塾す。

受信 米国津田より返書着。

発信 秋田財部え。

九月六日 己巳 月曜 小々雨。

朝、散歩して帰。始業式。通常授業す。朝七時より十一時三十分迄。午下四時より茅町岩
崎久弥男の病を問ふ。益快方のよし、食事も常の如しと云。先々安心。来客、岡崎忠子、
外生徒の母たち。房州重威え甘な納豆一箱出す。

発信 神戸神代え。天神藤田いよえ。

*天神(天津) *甘な納豆(甘名納豆)

九月七日 庚午 火曜 晴。昨夜雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。戸田康保子母堂富子葬式二付、代理植草を出す。
発信 天津藤田いよえ帛紗小包にて出す。

九月八日 辛未 水曜 晴。八十三(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、志賀鉄千代。

九月九日 壬申 木曜 晴。八十四(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、井上良馨夫人光子、其孫女と同道にて、入学願出られる。芝青松寺北野元峰師を頼みて、午下六時過より道德講演を塾生及下婢に聴聞させる。八時半迄。

九月十日 癸酉 金曜 朝雨、已而晴。八十(度)。

朝、散歩して、氷川神社に参詣して帰。角田栄子、村井孝子、稽古す。来客、星野常子。
夜、子供等つれて、近きわたり散歩して帰。氷川神社祭礼。
受信 重たけより端書着。

*重たけ(重威)

九月十一日 甲戌 土曜 朝雨、後晴、午下四時頃、細雨。風なし。静なり。二百廿日、危日なから至而静穩。八十三(度)。

朝、雨を冒して散歩して帰。中島氏倫理を聞く。

*危日(厄日)

九月十二日 乙亥 日曜 晴。午下四時半頃より、雨降り出したり。

朝八時半より、予、正子と同じく、観世に能を見る。三輪 片山、松虫 山階、三井寺 片山、大仏供養 木下、弦上 橋岡。片山、橋岡之芸の上りたるに驚きたり。久々に面白く。本日之暑さ、実に堪かたく、九十度かと思はれたり。弦上の師長、雨の大臣にて豪雨ふり出したり。時機適合す。駿ヶ台渡辺良斎死去二付、植草会葬す。

発信 秋田財部、山中秀、川村はるえ。

摘要 観世能に行く。

*弦上(絃上) *弦上(絃上)

九月十三日 丙子 月曜 終日、細雨。六十七(度)。

朝より頓にすゝしく、ふらねるを始めて着て、尚さむく、きのふにひきかへ蘇生したり。

課業例の如し。

*ふらねる(フラネル)

九月十四日 丁丑 火曜 晴朗。八十(度)。
課業例の如し。早苗、大炊氏秋祭にゆく。一泊。揮毫ものす。

九月十五日 戊寅 水曜 晴。八十八(度)。此日の炎暑実に堪かたう。
朝、散歩して帰。課業例の如し。午下四時より大炊氏に行。築土神社祭礼に付、招かれ、正子、石山すま子も来られて、夜八時頃帰宅す。来客、京都御寺御所執事大島独峰尼、皆々不在にて不逢。八朔、天気大静穏、厄日結構、可喜。

九月十六日 己卯 木曜 晴。八十九(度)。
朝、散歩して帰。課業例の如し。

九月十七日 庚辰 金曜 雨。九十(度)。
朝、角田栄子、原春子、今津照子、教授す。入塾、谷元。

九月十八日 辛巳 土曜 雨。七十(度)。
朝、中島氏倫理講話聞く。

九月十九日 壬午 日曜 雨。
朝八時出門、予、桃子と車にて新橋二行。角田氏夫婦、先在。八時四十分ニ乗て行。空曇りながら晴たり。横浜着。原氏より迎ひの車に乗て三の谷に行。梅園に一同迎ひ出られて、秋の千草、今を盛りと妍を争ひ、実に綾錦の中を分け行て、はしめ待春軒にて茶菓、暫時やすらひて此園の趣款賞されたり。神社、六百年前の古寺、また山里にて休憩。夕顔棚の下より田舎の趣妙々也。寒月庵にて午餐、会席、みな時候の調理よくとゞのひたり。それより上の本座敷にて、果物、茶のみ、また今般建築之わらふき家屋ニいまた移転にならざるを、此日座敷開かれたり。住居にハ、実に健全たる、広き事驚く可く、木質は至て粗末、只大丈を本位とせられたり。可感也。五時之汽車にて帰る。大炊家政君、北海道より帰京。

摘要 三谷秋草見に行。角田氏と。

*趣款(趣感) *茶のみ(茶飲み) *わらふき(藁葺)

九月二十日 癸未 月曜 雨。
本日より、朝八時授業。午後二時迄。

九月二十一日 甲申 火曜 彼岸の入。晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下早々、千駄木田中氏え行。法話聴聞して帰。

九月二十二日 乙酉 水曜 晴。

朝、散歩して帰。墓参す。課業例の如し。

九月二十三日 丙戌 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

九月二十四日 丁亥 金曜 雨。雨降りつゝきたり。

秋季皇霊祭、祖先祭執行す。午下、例の如く、生徒及家内一統、すもしを供養す。来客、大炊御門家政君、酒肴出す。七十日間職務上北海道に旅行せられたる、無事御帰京也。

九月二十五日 戊子 土曜 晴。

朝七時出門、新橋二行。伏見宮若御息所御渡欧二付、奉送する。実盛況也。八時四十分、御機嫌よく御勇ましく、御別れ申上たり。已而帰。来客、今津角太郎。

九月二十六日 己丑 日曜 晴。

朝より来客、浦四三子、又其母、今般小田原住居に相成二付、御暇乞に来られる。塾生一同、植物園ニ遊歩して帰。

受信 米国津田栄子より端書にて音信着。

九月二十七日 庚寅 月曜 雨。夜月清し。

昨夜より、雨降り出して、今朝の豪雨甚し。課業例の如し。中島氏倫理、午前十一時より十二時迄ニ取究る。万里小路直房一周年忌、八重子十三年忌、芝明浄院に読経ある二付、桃子、正子、芝に行。予ハ雨にて不参す。大雨二付、門前出水二付、昼迄の授業にて休業す。午下、雨も細雨となりて出水もなくて先々安心。

*芝明浄院(芝妙定院)

九月二十八日 辛卯 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、毎日電報記者枝元氏。

発信 来栖氏え返書。

九月二十九日 壬辰 水曜 中秋無月。夕景より雨ふり出したり。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、中島氏倫理聞く。

発信 米国津田え返書出す。秋田財部え。

九月三十日 癸巳 木曜 雨。

課業例の如し。午下四時より常務員会を開く。今津氏、角田氏、宮原氏、水上、石山等に、今後の協義に及ぶ。九時散会。時、月出て、雨晴たり。訃音、中井敬所翁死去。

*協義(協議)

(十月)

十月一日 甲午 金曜 晴。

朝、散歩して帰。別課稽古日。角田栄子、原春子、今津照子。二時過より、茅町中井氏二弔詞を伸え、参拝して帰りぬ。拾着初ぬ。

十月二日 乙未 土曜 晴。

朝、散歩して、墓参する。帰り、課業例の如し。塾、障子たてる。

十月三日 丙申 日曜 晴。

朝、大坂木津林喜右衛門分家林長次郎と申者来る。八時より、予、正子、李子と同しく、観世に能を見る。六時帰宅す。

(挿入紙)「「故二荒芳之伯」新聞記事の写真貼付」

十月四日 丁酉 月曜 晴。夕かたより雨ふり出したり。

朝、散歩して帰。課業例の如し。中島氏倫理聞く。来客、橋岡氏、稽古始める。

十月五日 戊戌 火曜 雨。

課業例の如し。

受信 岐阜中島幸より松風菓子着。

十月六日 己亥 水曜 曇。

朝雨。課業例の如し。中島氏倫理聞く。橋岡氏来る。

受信 大坂久岡あさ書至。北畑末子より林檎着。

発信 山中秀子。河村晴子。

十月七日 庚子 木曜 晴。

課業例の如し。来客、清藤秋。

発信 久岡あさ子え。北島末子え、中島ゆき子え、山中久子え。

十月八日 辛丑 金曜 晴。
今津照子、角田栄子、村井孝子、教授す。俄に思ひ付て、夕景より、予、桃子と高木演芸館二大阪舞を見る。十時帰。

十月九日 壬寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。泉会、午後一時より。講師の演舌なくて、琵琶の余興二番あり。夫より会則につきて、種々協議する。一、三、四大会、六、十、十二忘年会、年六会とす。三月、六月、十月を倫理の講話と定む。本日会する者、外来のみにて四十余名也。御合のもの、栗飯、御にしめ、御汁を出す。天気晴朗にて、点灯頃迄二済。

*協議(協議) *御にしめ(御煮染)

十月十日 癸卯 日曜 雨。

朝九時より、上野美術協会に催さるゝ塩川文麟翁遺墨展覧会を観る。式百点もある。大作物、其外蜜画、疎画等、実に敬服の外なる。二時間熱心に見而帰。帰途、田村氏を訪ふ。皆不在にて、野田さまのみにて、有かた咄しに時を移し、三時帰。

*蜜画(密画) *外なる(外なく)

十月十一日 甲辰 月曜 雨。

課業例の如し。中島氏倫理を聞く。来客、石井初子。泰、石山、太田え下見分に行、遠足之件。昨日の執行、雨にて本日。池の水上る。

十月十二日 乙巳 火曜 晴。

課業例の如し。午下、閑院宮様え参して御息所御君に拝謁、種々御咄し申上てまかる。此帰路、石山氏え寄、暫時にして帰。明日太田え遠足之準備いたし。夕景、雨ふり出して、終夜ふり通したり。

十月十三日 丙午 水曜 晴。

四時頃迄雨降り通したり。とても遠足ハ六ツケ敷からんと中止す。通学生ハ大かた両国迄出張りたるも、中止ニ付、帰校。課業例の如し。正午頃より晴天と相成、一同の落胆いはん方なし。中島氏倫理聞く。来客、婦人画報水島記者、毎日新聞記者西出朝風。

十月十四日 丁未 木曜 九月朔 晴。

朝、(散)歩して帰。課業例の如し。午下、志賀氏講話アリ。来客、岡崎忠子、万里小路智子、大竹昌蔵。

十月十五日 戊申 金曜 晴。
朝、散歩して帰。墓参す。課業例の如し。

十月十六日 己酉 土曜 晴。

太田遠足会、生徒全部。朝五時半、塾生一同を拉して、終点より電車にて神保町乗皆、直二両国停車場二行、六時半、姫宮三殿下成らせられる。鉄道局にてハ宮様成らせられニ(ママ)付、特別臨事汽車仕立ると云、一時間遅く成る。然し停車ハなく候故、格別遅くもならぬと云、八時半発車す。天気ハ実に申分なく、それに始めての処なれハ、見るもの珍ら敷、十一時太田に着。わか校友父兄等、及新田寺大光院より使僧、及信徒惣代一勢迎人列を立て、大光院え御着。実に盛況也。大僧正、緋の衣にて御迎ひ申上、御座え成らせられる。僧正の案内にて、本堂御拝、宝物拝観。十二時昼餐済て、徒歩して金山ニ登る。実に急なる山道にて、途中にて登れぬもの五、六人あり。十二丁の山道と云。漸登り尽して、新田神社ニ参拝す。新田左中将旗印、宝物拝見す。此時、校友中村多佳、相川信、若旅島、丸岡ます、新島里子より、菓子箱入三百五十箇、林檎七百箇、一同え饗せられる。茶のたき出し、歓待盛也。山上四方之眺望、日光山、赤城の処々、下に渡良瀬川、桐生、繁花なる町々、実にぱのらまの如し。黄田万頃、秋色風光限りなし。山上之写真撮影二度、一同山を下りて大光院ニ休息、暫時にして四時半汽車に乗す。送り之人々又山をなす。誰一人の病人もなく、一同無事、八時両国ニ着。直に帰校、先々安心。

*乗皆(乗替) *特別臨事汽車(特別臨時汽車) *ぱのらま(パノラマ)

十月十七日 庚戌 日曜 神嘗祭。晴。

朝、散歩して、五軒町大炊氏を訪て帰。正子、靖子、早苗、長尾氏二行。日暮て帰。李子、芝薫風会二行、八時半帰。

十月十八日 辛亥 月曜 雨。

休業。朝雨、しはらくして晴となる。来客、朝十時頃、安田暉子、自動車にて迎ひに来られ、予、李子と同じく、自動車にて谷中酒井夏子様御墓参して、御花を供し、其外万里家の墓、浄明院地藏尊えも参りて、上野精養軒に昼餐会食して、官設美術展覧会二行、日本画、洋画共縦覧す。実に可驚出来のものありて、感心す。四時帰。

発信 越後吉田豊子、大坂中島一治、秋田財部、河村はる子え。

*浄明院(浄名院)

十月十九日 壬子 火曜 雨。

課業例の如し。来客、山中秀子、堀田夫人伴子。夕五時、北野元峰師御講話聞く。塾生一同聴聞。八時済。

十月二十日 癸丑 水曜 晴。

課業例の如し。午下、中島徳蔵君倫理講話を聞く。
発信 大坂唯専寺え返書す。

十月二十一日 甲寅 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。夜十時頃より吐瀉、腹痛、懷虫一疋吐出す。

*懷虫(蛔虫)

十月二十二日 乙卯 金曜 晴。

腹痛、猶やみかたく、臥。外来稽古断る。已而病全快く、明日準備二忙し。

摘要 津田梅子、本日午下二時、寄宿舍落成式執行。

十月二十三日 丙辰 土曜 晴。

朝四時起。箱根修学旅行執行。五年生三十人、予、李子、泰、石山基威、同基陽、大塚、小林、長尾、惣勢三十八人也。五時半電車にて新橋発車。七時廿分、天殊の外晴朗、一同歡喜極りなし、国分津着。夫より電車にて湯本二着。徒歩にて行。畑宿にて昼弁当つかふ。予、駕、外二駕を設ケ、足よわの人代々の筈。箱根旧道山阪けわし、四里の路徒歩にて、三時半、山中石内旅館二着。耆人之病人もなく、大無事健全。元本陣旅館主来りて、明治十四年十月十四日、三条智恵君様御同行にて御一泊之栄を得たと云。旧懷之情可思。生徒等ホートに乗て唱歌を唱ふなど、楽しみ甚し。夕景少し雨降りたれと、暫時にして晴、月出たり。

*国分津(国府津) *ホート(ボート)

十月二十四日 丁巳 日曜 晴。

朝六時頃より起出して、身仕度ニかゝる。館主より願出たる二尺巾大横絹本ニに(衍)て、さなからの駒ヶ岳に添ふたる富峰之図を揮毫して、紀念とす。九時出立す。箱根蘆之湖離宮拝観、御洋館及御日本館之宮殿、実に旧都之御所之通りにて、殊更ニ結構にて、湖水ニ富士之風色ハ、又と世になき心地せられて退きかたく、是日本第一の絶景也。良久しく拝観して、御庭ニは梅鉢草沢山ニあり。下りて、船の用意ありて、四艘二十人ツ、乗て、帆など上て面白く、紅葉ハ盛りに早く、半の紅葉称しツ、船をとめて箱根神社ニ参詣して、又船に乗て二里、湖尻ニ着。十一時廿分、又徒歩にて行。少女峠、姥子、冠岳之紅葉、一面如錦繡。二子山を麓を通りて、姥子にて弁当をつかふ。それより大涌谷大地獄を下る。難行道、実に地獄と云へし。仙石上湯、下湯、強羅温泉、宮城野、木賀、此辺絶景可称。紅葉盛也。底倉蔦屋二着。主人、跡見女学校底倉蔦屋の絵端書を一同え進呈す。其奇びんに驚きたり。此時、午下二時半、生徒連て散歩。宮之下不二屋二行。実に立派なるに驚きたり。皆々温泉に浴して心地よし。月清光、宿の歓迎尽されたり。

*。少女峠(乙女峠) *奇びん(機敏)

十月二十五日 戊午 月曜 晴朗。

朝六時起。一同温泉に浴して、仕度も調て、九時蔦屋出立して、堂か島に行。予も徒歩に山路を下りて、四百山に囲まれ、幽邃閑雅、谷川の橋より一同を撮影す。みな脊にわり筒を負ふて行。湯本蔦屋支店に着、わり筒を出して中食す。夫より電車にて小田原十字町に下りて、浦氏を問ふ。挙家の悦ひ一方ならず。茶菓子を出され、其内手製すもしも出来、一同御馳走ニなる。面白し。三時半迄遊ひて、暇を告て、又電車に乗して帰路につく。汽車中種々なる興味あり。しらすくのうち、残り多くも新橋に着。通学生と別れて、又電車にて帰。

*四百(四方) *わり筒(割籠) *わり筒(割籠) *しらす(しらす)

十月二十六日 己未 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

(十月二十七日〜二十九日、記載ナシ)

十月三十日 癸亥 土曜 晴。

課業例の如し。神代より電報。此夜九時新橋着。直に、正子、泰、寿子、下男等迎ひに行て、神代夫婦同道し来る。余等、歓迎の準備する。一同無事着。酒肴を出して、十二時皆臥。

十月三十一日 甲子 日曜 晴。

神代夫婦、親戚廻りして帰。酒肴。夜一時就眠。来客、酒井喜美子殿、横田夫人、橋本夫人。

(十一月)

十一月一日 乙丑 月曜 晴。

課業例の如し。神代夫婦と官設展覧会及常設館の菊見二行。正子、泰、寿子、夜帰。来客(以下、記述ナシ)。

十一月二日 丙寅 火曜

課業例の如し。来客、酒井忠克殿。

十一月三日 丁卯 水曜 天長節。晴朗。

朝八時半迄、生徒一同集会。運動場に式場を設け、九時着席。君か代を唱ふ。校長、勅語拝読、畢而陛下万歳三唱す。茶菓を出す。十一時、一同退散。午下三時半より、家内一同日比谷大神宮に詣して、神前にて、泰、寿の結婚式執行す。会する者、予、正子、李、弘、神代夫婦、新田夫婦、角田夫婦、万里小路伯。官司の祝詞ありて、媒酌人之祝詞ありて、杯事ありて、先々めて度済、一同車を狂て、わか宅にて祝宴を開く。十時、めて度済。
*狂て(枉て) *めて度(目出度)

(十一月四日〜八日、記載ナシ)

十一月九日 癸酉 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。本日、吉辰。結婚披露会、上野精養軒に開く。会する者六十一人也。晚餐はじまる。角田氏挨拶、中村元嘉氏来賓惣代挨拶ありて、跡見家万歳三唱す。食事畢而下の広間に休憩之時、増田義一、献立紙面に記念之画を乞れると、我も々と持来り、大はづみ、思はず盛也。先滞なく、めて度済て、一同退散す。九時。
*大はづみ(大弾み) *めて度(目出度)

十一月十日 甲戌 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大炊御門家政、岡崎国良、重威、晨子。神代夫婦、正子と同行にて、今夜誥別して、九時汽車にて帰神す。

十一月十一日 乙亥 木曜 晴。

課業例の如し。来客、河野関子、姉小路伯。志賀先生講話を聞く。遠藤氏、夜九時出立、十一時汽車にて帰らる。

十一月十二日 丙子 金曜 晴。44(度)。

別課稽古日。原春子、角田栄子、重威来る。明朝帰房と云。来客、台湾愛国夫人雑誌記者今久子。午下三時より、予、李子と同行、倉持氏より招により行。挙家之悦ひ一方ならず。星野花子と先在て店の玩具陳列を観る。長子之案内にて、常設館之菊を見る。菊人形ハ一層大仕懸にて見事也。先みるへきハ、菊花の種類之沢山ニは驚きたり。イルミネション盛也。見畢而、柳光亭にて晚餐を饗せられ、八時半帰。早苗、新田え行て一宿す。

*台湾愛国夫人雑誌(台湾愛国婦人雑誌)

十一月十三日 丁丑 土曜 晴。44(度)。

課業例の如し。来客、永野辰子、鎌倉孤児院佐竹細君。午下一時より塾生を拉して、原町酒井伯庭園之菊を観る。当年ハ殊の外咲栄て一層見事也。一同え茶菓を出されたり。松間

の紅葉など、よく染出したり。良しはらく遊ひて帰。泰夫婦、角田氏え御礼二行て帰。早苗、新田二二宿す。

受信 大坂吉宗より、ふらねる着。

*ふらねる(フラネル)

十一月十四日 戊寅 日曜 晴朗。

朝より揮毫ものす。来客、二六新聞記者 美少女の写真撰定願に来る、千家信子。

十一月十五日 己卯 月曜 陰。

朝、墓参して帰。課業例の如し。早苗、本日新田より帰。午下早々、李子、角田まよ子連て神奈川え行。夜九時帰。

十一月十六日 庚辰 火曜 晴。

課業例の如し。揮毫ものす。来客、今井恒郎。

受信 神代鶴子より書至。正子端書着。

十一月十七日 辛巳 水曜 晴。

課業例の如し。揮毫ものす。中島氏倫理聞く。

十一月十八日 壬午 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、報知新聞女記者、時事新報女記者。午下早々、予、李子、静、下婢冬、民連て、芝妙誠院二行、鷺田菊江三周忌執行す。来会者、山尾末子、大炊晨子、岡崎忠子、太田房子、亀子、安田輝子、別府徳子、清水初、武藤氏、北沢、茂木附女中春。本堂にて読経、畢而茶菓子、御すもし折詰を出す。五時済て帰。

*妙誠院(妙定院)

十一月十九日 癸未 金曜 晴。

朝、墓参して帰。別科稽古日。角田栄、今津照、村井孝。

受信 京都正子より鶴子代筆端書着。

十一月二十日 甲申 土曜 晴。

課業例の如し。午下、予、李子と同道にて、三越に行、種々買物して帰。植草氏、今日より暇を願ふ。

十一月二十一日 乙酉 日曜 晴。

朝より絹本三枚揮毫す。午下二時より酒井伯邸に見招。閑院宮両殿下、若宮、姫宮御三方

も成らせらる。九条公御夫婦、三条公御夫婦と予と也。陸軍次官石本氏撰たい致される。御庭の菊花御覧にて、紅葉殊に染出したり。御洋館にて、北村季晴一行、ヒヤノ、バイヲリンにて、歌劇桃太郎面白く、女音楽師之喜劇、北村之新作とか、笑声切り也。畢而、御食堂、立食。此間、勸進帳、長唄芳村六左衛門、下かた入にて。次、茶番武士の面影、橘屋八百蔵、三遊亭円太。老松、藤間勘右衛門踊。次、七福神、長唄と、ヒヤノ、バイヲリント。御好、越後獅子。御食事畢、九時還御あらせられ、予も又つゝいて帰。受信 奈良漬、正子より着。

摘要 午下三時より酒井伯菊の宴招待される。

*撰たい(撰待) *ヒヤノ(ピヤノ) *切り(しきり) *ヒヤノ(ピヤノ) *つゝいて(続いて)

十一月二十二日 丙戌 月曜 晴。

朝、散歩して、酒井伯え昨日御札に行て帰。課業例の如し。安子、暉子、脩三郎、堀田伴子さま御出にて、李子同道にて、加茂氏の招に応せられる。予、二時より華族会館二行。愛国婦人会前会長岩倉御夫人慰労会、立会饗応、五時済。閑院宮妃、御台臨あらせられる。受信 長府毛利子より、はるのかたみ一冊着。

摘要 午下二時より愛国婦人茶話会、華族会館。

十一月二十三日 丁亥 火曜 新嘗祭。晴。

朝九時より、予、李子と同しく、観世に能を見る。終日の楽しみ、番組もよく、清久、橋岡の石橋 連獅子、見事にやりなしたり。感すへし。八時帰。

摘要 観世別会能。

十一月二十四日 戊子 水曜 晴。夜雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。中島氏倫理聞く。

十一月二十五日 己丑 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。神代より電報来。正子、本日十二時半新橋着。泰夫婦、石山氏、迎ひに行。途中、障り有て、二時着と云。三時、無事着。久々の留主二付、種々なる咄しにて、夜もまだやます。十時臥。

*留主(留守)

十一月二十六日 庚寅 金曜 晴。

課業例の如し。故石山基正子十五年祭、墓前祭執行二付、参詣して帰。

十一月二十七日 辛卯 土曜 晴。

課業例の如し。石山基正子十五年祭、来月を引上られ、本日呼れたれと不参。正子、石山のみ参詣す。新田純孝氏より、挙家一同、初客に招かれ、午下二時より行。主人の弄具種々珍ら敷品々拝見す。后宴はしまりて、夜九時帰。此夕五時頃より月食。雲なく風なく、皆既迄よくみえたり。八時迄に月鏡の如し。来客、千田勇子。
摘要 挙家新田氏え呼れる。

十一月二十八日 壬辰 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十一月二十九日 癸巳 月曜 晴。

課業例の如し。来客、太田大光院千野学禅、精美堂伊尾準、女子文壇記者寺田よし、阿部米子母、仁科文蔵妻、桐島銚子、東洋絵画会長、尾崎行雄代理荘資親。

十一月三十日 甲午 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。泰祝義之鶴の子餅、松魚券、配りものにかゝる。来客、嘉山梅子、千田勇子。実業之日本星野氏、御教室撮影して帰。

*祝義(祝儀)

(十二月)

十二月一日 乙未 水曜 晴。

課業例の如し。墓参して帰。終日揮毫物に忙かし。本日も祝義の配りものさせる。来客、橋岡氏。中島氏倫理聞く。

*祝義(祝儀)

十二月二日 丙申 木曜 晴。

課業例の如し。泰祝義の配り物、本日中にて市内の分相済。

受信 財部梅子より為替にて金二円着。

発信 大和田氏え。財部氏え。河むら晴子え。山中ひて子え。

*祝義(祝儀)

十二月三日 丁酉 金曜 晴。

早朝より、栄子、暉子、春子、教授す。午下、予、李子と同道にて、目白台関口町養国寺にて、山片菊女之一周忌取越、施餓鬼執行す。仁科駒女、其嫁と参る。読経済、墓え参りて帰。本日も配りものさせる。

受信 房州より、はかき着。

発信 女子文壇え慶応三年正月三日の日記を出す。

*はかき(端書)

十二月四日 戊戌 土曜 晴。

課業例の如し。本日にて配りもの済。来客、由比少将夫人、倉持長子、婦人画報高見久太郎。

受信 房州より落花生着。

(十二月五日、記載ナシ)

十二月六日 庚子 月曜 晴。

課業例の如し。早苗、七歳の祝ひにて、衣装ハザンシンなる友禅縮緬踊り桐の模様ふり袖、下着紋壁赤地、帯ハ大古茶に金入紅葉模様、箱せこさしての出たち、実に清らに愛らしく、石山氏と車にて氷川神社ニ参詣す。帰り、写真師呼て撮影させる。夜、祝酒盛んなり。来客ハなし。橋岡来る。

*ザンシン(斬新) *箱せこ(箱迫)

(十二月七日、八日、記載ナシ)

十二月九日 癸卯 木曜 晴。

課業例の如し。志賀氏講話アリ。来客、原安子、小池清女。

十二月十日 甲辰 金曜 晴。

角田栄子、今津暉子、原春子、稽古す。

十二月十一日 乙巳 土曜 晴。

泉会忘年会、朝より習字教場に舞台出来、大準備。午下一時より会員来集す。第一春、一休地獄大夫活人画、第二秋、小督嵯峨の奥、第三悲劇、善か悪か、第四夏、海浜たこの団鸞、第五冬、忠臣蔵打入、第六喜劇、跡見女学校新築落成式。皆よく出来たり。始、御菓子、煎餅、みかん、御汁粉、御雑煮、稲荷すしと云。夜二時より御すしにかゝる。千八百箇と云。来会者二百五十人、実に盛況を究めたり。十時全畢。

*団鸞(団鸞)

十二月十二日 丙午 日曜 晴。

朝より、画室の取かた付にて、悉皆十二号ニ諸道具納め入れる。丸て軍艦の部屋の如く、極便利なり。一間に住て又面白し。

十二月十三日 丁未 月曜 晴。
課業例の如し。橋岡来る。

十二月十四日 戊申 火曜 晴。
課業例の如し。此夜、洋館の名残にこゝにて宴会す、家内一同。

十二月十五日 己酉 水曜 晴。今夕初雪ふる。已而晴。

課業例の如し。午下三時より帝國ホテルにて東洋婦人会惣会ニ行。鍋島夫人会長之招待にて、この会の規則も変皆に相成、会計報告、次に会長之挨拶等有て、桃川の講演、畢而晚餐会ニ移る。八時帰。吉辰ニ付、居宅解はしめる。奥ハ応接間ニ住居する。此一間のみ也。台所ハ室を使用す。みな火事場の如し。

*変皆(変替) *応接間(応接間)

十二月十六日 庚戌 木曜 晴。

課業例の如し。わか画室、いよゝ取こわしにかゝる。

発信 山中秀子、河村晴子、大和田氏え。桐島氏え。

*わか(我) *取こわし(取毀し)

(十二月十七日〜二十七日、記載ナシ)

十二月二十八日 壬戌 火曜

朝、閑院様より電話にて、平松高子様御立に成たると云。とんと判然せぬ故、三条様え聞正したる方よしとて、直に電話懸ル。平松高子死去致されたるよしにて、実に驚々入、直ニ文にて、すけ君様え御くやみ申上、御見舞の品さした(上)る。

十二月二十九日 癸亥 水曜 晴。夜、雨ふる。

床払して準備する。

十二月三十日 甲子 木曜 晴。

朝十時、出門。予、正子、弘、靖、早苗、五人連にて小田原ニ旅行す。新橋迄石山氏送られ、万端世話よく行届たり。十二時、発車す。靖子、早苗の喜ひ一方ならず。東海の旅始めにて、見るものみな珍らし。十七駅済て亀屋ニ着。三時也。志賀氏先在、坐敷之事心配され、下の十三番八畳六奥の二間、至極便利宜しく、こゝに究めたり。海ハ側にて風色尤好、海岸ニ散歩す。四時、東京え、着の届出す。第一暖き事、十度以上の差あり。波の音静にきゝつゝ、年の暮ともおもはれず。八時臥。

*六奥(六畳)

十二月三十一日 乙丑 金曜 晴。
 朝六時起て、空ハ海面ほのめきて、スケツチ処々真景を写す。真正面に旭日の出る、一天朱の如く、実に海より日の上りつゝある気色ハ始めて也。浜つたひ散歩して帰。志賀氏を問ふ。午下、一同散歩して小田原に買物して帰る。当年ハ世の外の年越にて尤心静也。
 *浜つたひ(浜伝ひ)

当用日記補遺

四月一日より入金	四月十日	出金
五日 金拾円也	四月十日	残り高 廿七円三拾五銭
同五円	一月分	廿式円四十六銭
同五円	二月分	三拾九円五十二銭
同三元	三月分	八拾四円六拾七銭
同二元	惣計	
十四日 同五円	払済	
十六日 同貳円	四月九日	三円五拾銭 太田浪え
同	同	貳円五十銭 香料、石山家え
三月分 同十円	四月十日	金七円也 橋岡え
十日 同十円		同貳円廿銭 万年堂え
同 同千疋		同 五拾銭 車夫え
同 同五円		同貳円六十銭 次え祝義
同 金五拾円		
同 會計より		

*祝義(祝儀)

同 九拾銭	四月一日	五拾銭 みとしろ町協会え
同拾九円五拾銭	*みとしろ(美土代)	
同三元 洋食	二月	五拾銭 石山女中え
同 壹円	同	石山行入用
同 十銭	十一日	電車代

同 拾円 竹内太左衛門
 同 拾円 サンマース
 同 五円 青木正太郎
 同 貳円 三上参次
 同 拾円 小野光景
 同 五円 富山鏗子
 同 拾円 高橋琢也
 同 拾円 熊木藤右衛門
 同 貳円 伊藤千代
 同 貳円 小林しげ
 同 拾円 小泉富子
 同 拾円 岡本とき
 廿五日 五拾円也 五月分会計より
 廿八日 貳円五拾銭 東伏見宮様より
 廿九日 三拾円 石沢健次郎
 祝賀会ニ付入金 四百貳拾九円廿五銭

六月一日より入金
 四日 金 貳円 村井光子 二日 金六拾八銭 机懸
 同日 金 五拾銭 野呂善作 同日 金六拾八銭 土瓶
 五日 金 壹円 遠藤貫三郎 同日 三拾五銭 スリツハ
 *スリツハ(スリツハ)
 十三日 金拾五円 浜荻典侍 五日 小紋下着染物 普門
 同日 貳円 斎藤常子 同日 御盆ぬり物五ツ ぬしや *
 ぬしや(塗師屋) 九条家 同日 御膳つくろい ぬしや *
 廿二日 同 千疋
 ぬしや(塗師屋) 今津照 六日 金 五円 幸五郎え祝
 廿五日 同 貳円 村井孝 同日 靖国能行
 同日 同 貳円 會計より 同日 往復
 同日 同 拾円 閑院宮様より 十一日 貳円 廿銭 竹細工盆
 同 同 拾六円也 同 十三日 十銭 電車代
 同 同 拾六円也 同 十四日 壹円 廿銭 東洋女学校行
 同 同 拾六円也 同 十四日 三拾壹円 廿銭 下駄直し
 同 同 拾六円也 同 十四日 三拾壹円 出入方え祝返し

跡見花蹊日記 明治42年

七月一日より入金
 二日 金 貳円
 二日 貳円
 二日 千疋
 三日 五円
 五日 廿円
 同日 三円
 七日 五円
 九日 七円
 同 拾五円
 同 五拾円

村井千代
 村井光
 三条家
 馬場氏
 井上竜太郎
 園祥子
 森顕子
 田中勝子
 女官五人より
 原氏

七月五日 事務所え払済
 外金六拾九円九拾五銭
 七月一日より入金
 一日 八円 五十銭 しゝら帯
 *しゝら帯(緞帯)
 一日 壹円 八十銭 御召モスリン
 一日 八拾五銭 白地ゆかた
 一日 五拾銭 帯地
 一日 三拾銭 電車代
 一日 廿五銭 買もの
 二日 壹円 三拾銭 氷川染浴衣一反
 十一日 三円 五十銭 中形浴衣二反
 同 壹円 四十八銭 有松浴衣一反

同 羽二重紋附染代、普門
 同 大隈伯行
 十三日 青山御所行
 十七日 三円 五十銭 精養軒
 同 廿五銭 香油一瓶
 同 七銭 食塩一瓶
 同 十銭 電車代
 同 四十銭 健筆会、研精会
 同 廿銭 煮山椒二瓶
 四十二年会費 三円六拾銭 婦人法話会
 廿二日 鳩山行
 廿六日 三円五十銭 紹縮羽織染代、三河や
 壹円 八拾銭 帯地、絹や
 廿七日 拾八銭 柳葉筆二本
 同 三拾九銭 同大 三本
 同 壹円 二寸五部(分)刷毛
 同 七拾銭 二寸刷毛
 同 八拾五銭 時計直し、鈴木
 十七日 五拾四円 金時計代
 雑費
 金三拾七円三拾銭也

同	拾五円	法帖代	同	壹円	七十銭	紺かすり一反	
同	貳円	藤堂子	同	壹円	廿銭	傘模様一反	
同	六円	山中秀子	同	六十銭	金貨入		
同	二円五十銭	錦織隆子	同	六拾五銭	小かたな一		
同	五円	星野美代	同	七拾五銭	ヒンポン		
同	千疋	田中久子	*ヒンポン(ピンポン)				
同	五拾円	會計より	同	壹円三拾貳銭	リホンカンザシ六ツ		
同	五円	来栖氏	同	*リホン(リボン)	三拾銭	電車代	
同	五円	別府静	同	五円	五円	良子さま女中え	
同	四円	伊藤福	同	五円	五円	石山氏え	
同	三円	松岡静	同	五円	五円	弘え	
同	拾円	安田暉	同	五円	五円	召使え	
同	貳円	中田氏	同	壹円	廿銭	正子え	
同	拾五円	今津暉	*あんま(按摩)			あんまえ	
廿日	五円	田辺栄	同	四拾八銭	四拾八銭	弁当二組	
同	廿円	高取春子	同	八拾八円六拾八銭也			
同		竹内太左衛門	同	十三日 参拾壹円	五十銭	出入方え祝義	
同			*祝義(祝儀)	十五日	壹円	五十銭	施餓鬼料
八月一日より入金				廿八日	貳円	五十銭	大和田氏え
二日	貳円	村井孝		三十日	三円	五拾銭	京都大島え香料
三十一日	五拾円也	會計より		廿八日	五拾円也	銀行預け	銀行預け
				三十日	三円	五拾銭	寒暖計
				八月一日より出金			
				二日	壹円	石山女中、姉小路女中え	
				三日	拾五円	弘え旅費	
				八日	三十銭	車代	
				同	十五銭	車代、大炊氏	
				同	十五銭	たをる一	
				*たをる(タオル)			
				九日		ヒン百箇	

*ヒスケ(ビスケ)
 十二日 金五拾円 大坂火災ニ付義捐す
 十三日 壹円五拾壹銭 樟脳一箱
 十四日 壹円 六拾銭 老松一箱
 同 壹円五拾銭 ジンジャヒスケ一罐

*三こし(三越)

廿日 壹円 伊藤徳え
 廿日 九円 五拾銭 紗一反、三こし
 廿二日 六円 五拾銭 小田原行旅費
 廿三日 六拾六銭 めりんす六尺

*めりんす(メリンス)

同 七拾銭 めりんす七尺

*めりんす(メリンス)

同 五拾銭 きめりんす六尺

*きめりんす(生メリンス)

同 小ばん唐紙一帖、亀や

*小ばん(小判)

廿六日 壹円 十五銭 海綿一

廿八日 金三円 来栖え香料

三十日 紀州ねる大壹丈壹尺五寸

*ねる(ネル)

同 白金巾九尺、絹や

廿八日 紗羽織黒染 普門

廿一日 五円 正子え餞別

九月一日より入金

金四拾五円と弍銭也

六日 五円也

井上君子

會計より取替分

七日 三円也

阿部つき子

九月一日払済

廿五日 五拾円也

會計より

金壹円七拾六銭也

かめや

同 拾円也

払もの

九月一日より出金

二日 七拾九銭 墓参入用

十日 壹円 氷川社え御神酒

同 拾銭 万灯二ツ

十二日 三円 能席料

*安全ヒン(安全ピン)

ひん附油(鬢附油)

安全ヒン十ヲ

同 壹円 鰻飯二人分

十五日 四十銭 車代電車代

廿三日 廿銭 電車代

廿六日 三円 万里伯え香料

廿二日 十二銭 ひん附油 *

廿九日 五拾五銭 羽織紐

九月五日 習字帖三十冊

六日 茅町岩崎行

八日 牡丹模様長襦袢染直し

白紋羽二重長襦袢洗張

白紋羽二重長襦袢(袷)色上ケ

廿四日受取琴糸織ヒフウ(被

風)染上

廿四日請取つるなき織

ヒフウ(被風)色上ケ

つむきヒフウ(被風)色上ケ

*つむき(紬)

十二日 観世迄往復車代

黒縮緬袷羽織仕立、ふ門

十五日 かな帖三十冊

請取

廿日 貳円廿銭 正宗半タース

廿四日 請取白紋羽二重あらい張

廿四日 請取支那紋縮緬ヒフウ(被風)

洗張

廿五日 新橋 車代

廿七日 足駄一足、大黒や

同 廿銭 あんま *あ

んま(按摩)

金銭出納録		三十日		\頭巾洗張	
摘要	収入	支出	姓名		
一月					
二日 三条様より	二円	二円	車夫え祝義	*祝	
義(祝儀)					
三日 摺物三条様より	三円五十銭	一円五十銭	車夫え祝義	*祝	
義(祝儀)					
六日		廿銭	車夫え		
同日		一円	汽車代		
同日		一円	御車え		
八日 別府氏より	五円	一円	あんまえ	*あん	
ま(按摩)					
同日 伊東よし子より	二円	拾円	山片え香料	四日	
同日 松岡静子より	二円	二円五十銭	青松寺え		
同日 阿部米子より	三円	五円	泉会え寄附		
同日 馬場静子より	三円	六十銭	薫風会六ヶ月分		
十六日 堀田伴子君より	二円五十銭				
同日		二円五十銭	慈善切符一		
同日		五十銭	買もの		
同日		三円	横浜山本え香料		
同日		金廿七円五十銭也			
同日		内廿円出す			
二月					
一日 会計より	拾円				
同日 伊藤富貴より	五円				
同日 村井孝子入門	拾円				
同日 佃しな子	五円	三円	寺田きみえ香料		
同日	一円	三円	光円寺え香料		
同日		三円	山片菊法事料		
同日		四十銭	リホン代	*リホ	
同日		三円	玉枝母え榭料		

二月分
廿七円三十九銭也

五円
明々堂え診察薬料

三月一日より

一日 会計より 拾円
五日

三十銭 加藤氏玉串
四十銭 正子え薬代

六日 村井千代入門 五円

二円九銭五厘 横浜汽車代

十八日

一円 御車え心附
七円 酒井氏え松魚
内李子弍円

廿日 武内いくよより 一円

四十銭 車夫え

廿一日

廿六日 長谷川梅子 拾円

同 柳谷 貴曾 十五円

同 同 潤筆料 十円

同 廿銭 カメヤ手帳一

三月分
廿二円四十二銭
四拾九円八十五銭

十月一日より

十月一日より

入金 一日 金 弍円 今津照子

出金 三日 三円 中井え香料

八日 同 弍円 村井孝

(八日) 一円 大坂舞見物

九日 同 拾五円 来栖氏

十四日 一円四十銭 三部経一部

十八日 同 五円 吉田豊子

十九日 八十銭 御供養

廿七日 同 老円 財部梅子

十七日 六十銭 薫風会半季分

同 五拾円 会計より

八円也 箱根旅行費
八円也 橋岡え

十月一日より

車、中井氏行

七日 \ 牡丹模様長襦袢染直し

七日 \ 紗紋付羽織黒染

義(祝儀)

同	貳円	村井孝子	十五日	同	五拾錢	車夫え
同	拾円	中田富子	廿日	同	千疋	大和田氏
同	五円	安田輝子	廿一日	同	千疋	丹下氏
同	四円	手本代	廿一日	同	八円	橋岡え
同	五円	博文館	廿日	同	同拾貳円	袴地
十七日	同拾五円	宮内省女官	廿一日	同	五円	正子え
同	同貳円	今津暉子	同	同	五円	石山氏
廿一日	同三元	園祥子	同	同	同壹円	浜野え
同	同五円	森あき子	廿二日	同	貳円五拾錢	北野さまえ
十九日	同廿二円五十錢	軍事公債利子	同	同	五円	弘え
	同五拾円	會計より	三十日	同	金六拾円	銀行二預ケル
廿六日	同七円	田中勝子				
廿六日	同五円	来栖氏より				
廿七日	同千疋	九条公				
廿七日	同千疋	三条公				
廿八日	同二元	藤堂子				
廿九日	同三拾円	閑院宮様				

(新聞切り抜き) (1~5)